

厚生労働大臣

殿

福 田 諭 (印)

北海道大学病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和 23 年法律第 205 号）第 12 条の 3 の規定に基づき、平成 21 年度の業務に関して報告します。

記

- 1 高度の医療の提供の実績 → 別紙参照(様式第 10)
- 2 高度の医療技術の開発及び評価の実績 → 別紙参照(様式第 11)
- 3 高度の医療に関する研修の実績

研修医の人数	117 3/4	人
--------	---------	---

(注) 前年度の研修医の実数を記入すること。

- 4 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の体系的な管理方法  
→ 別紙参照(様式第 12)
- 5 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び閲覧の実績
- 6 他の病院又は診療所から紹介された患者に対する医療提供の実績  
→ 別紙参照(様式第 13)
- 7 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職 種	常 勤	非常勤	合 計	職 種	員 数	職 種	員 数
医 師	253人	267人	466.6人	看 護 補 助 者	54人	診 療 エ ッ ク ス 線 技 師	0人
歯 科 医 師	110人	41人	142.8人	理 学 療 法 士	12人	臨 床 検 査 技 師	72人
薬 剤 師	39人	0人	39.0人	作 業 療 法 士	6人	衛 生 検 査 技 師	0人
保 健 師	0人	0人	0.0人	視 能 訓 練 士	7人	髄 そ の 他	0人
助 産 師	33人	0人	33.0人	義 肢 装 具 士	0人	あ ん 摩 マ ッ サ ー ジ 指 圧 師	0人
看 護 師	788人	26人	808.1人	臨 床 工 学 技 士	13人	医 療 社 会 事 業 従 事 者	16人
准 看 護 師	1人	0人	1.0人	栄 養 士	0人	そ の 他 の 技 術 員	5人
歯 科 衛 生 士	13人	0人	13.0人	歯 科 技 工 士	6人	事 務 職 員	204人
管 理 栄 養 士	7人	0人	7.0人	診 療 放 射 線 技 師	50人	そ の 他 の 職 員	28人

- (注) 1 報告を行う当該年度の 10 月 1 日現在の員数を記入すること。
- 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
- 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下 2 位を切り捨て、小数点以下 1 位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

8 入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の入院患者及び外来患者の数

	歯 科 等 以 外	歯 科 等	合 計
1日当たり平均入院患者数	816.01人	21.71人	837.72人
1日当たり平均外来患者数	2400.22人	710.63人	3110.85人
1日当たり平均調剤数	1156.0 剤		

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療科を受診した患者数を記入すること。
- 2 入院患者数は、年間の各科別の入院患者延数(毎日の 24 時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
- 3 外来患者数は、年間の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 4 調剤数は、年間の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。

高度の医療の提供の実績

1 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
人工括約筋を用いた尿失禁の治療	1人
超音波骨折治療法	0人
先天性難聴の遺伝子診断	0人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注1) 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第二各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注2) 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第10)

高度の医療の提供の実績

2 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
胸部悪性腫瘍に対するラジオ波焼灼療法	1人
腎悪性腫瘍に対するラジオ波焼灼療法	1人
悪性黒色腫又は乳がんにおけるセンチネルリンパ節の同定と転移の検索	78人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注1) 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第三各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注2) 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			

(注) 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

## 高度の医療の提供の実績

## 4 特定疾患治療研究事業対象疾患についての診療

疾患名	取扱患者数	疾患名	取扱患者数
・ベーチェット病	300人	・膿疱性乾癬	12人
・多発性硬化症	146人	・広範脊柱管狭窄症	0人
・重症筋無力症	109人	・原発性胆汁性肝硬変	120人
・全身性エリテマトーデス	526人	・重症急性膵炎	5人
・スモン	2人	・特発性大腿骨頭壊死症	117人
・再生不良性貧血	99人	・混合性結合組織病	48人
・サルコイドーシス	320人	・原発性免疫不全症候群	45人
・筋萎縮性側索硬化症	46人	・特発性間質性肺炎	21人
・強皮症、皮膚筋炎及び多発性筋炎	282人	・網膜色素変性症	48人
・特発性血小板減少性紫斑病	162人	・プリオン病	0人
・結節性動脈周囲炎	65人	・肺動脈性肺高血圧症	20人
・潰瘍性大腸炎	188人	・神経線維腫症	64人
・大動脈炎症候群	67人	・亜急性硬化性全脳炎	0人
・ピュルガー病	48人	・バッド・キアリ(Budd-Chiari)症候群	2人
・天疱瘡	67人	・慢性血栓塞栓性肺高血圧症	13人
・脊髄小脳変性症	230人	・ライソゾーム病	5人
・クローン病	80人	・副腎白質ジストロフィー	0人
・難治性の肝炎のうち劇症肝炎	16人	・家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	0人
・悪性関節リウマチ	27人	・脊髄性筋萎縮症	1人
・パーキンソン病関連疾患(進行性核上性麻痺、 大脳皮質基底核変性症及びパーキンソン病)	466人	・球脊髄性筋萎縮症	1人
・アミロイドーシス	12人	・慢性炎症性脱髄性多発神経炎	1人
・後縦靭帯骨化症	187人	・肥大型心筋症	0人
・ハンチントン病	0人	・拘束型心筋症	1人
・モヤモヤ病(ウイルス動脈輪閉塞症)	122人	・ミトコンドリア病	4人
・ウェゲナー肉芽腫症	23人	・リンパ脈管筋腫症(LAM)	0人
・特発性拡張型(うっ血型)心筋症	113人	・重症多形滲出性紅斑(急性期)	0人
・多系統萎縮症(線条体黒質変性症、オリブ橋 小脳萎縮症及びシャイ・ドレーガー症候群)	86人	・黄色靭帯骨化症	0人
・表皮水疱症(接合部型及び栄養障害型)	14人	・間脳下垂体機能障害 (PRL分泌異常症、ゴナドトロピン分泌異常症、AD H分泌異常症、下垂体性TSH分泌異常症、クッシング 病、先端巨大症、下垂体機能低下症)	1人

(注)「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第10)

### 高度の医療の提供の実績

#### 5 健康保険法の規定による療養に要する費用の額の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
・強度変調放射線治療	・
・栄養障害型表皮水疱症のDNA診断	・
・画像支援ナビゲーション手術	・
・歯周組織再生誘導法	・
・悪性黒色腫又は乳がんのセンチネルリンパ節の同定と転移の検索	・
・強度変調放射線治療(限局性の固形悪性腫瘍(頭頸部腫瘍, 前立腺腫瘍又は中枢神経腫瘍であって, 原発性のものを除く)に係るものに限る)	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

(注)「施設基準等の種類」欄には、業務報告を行う3年前の4月以降に、健康保険法の規定による療養に要する費用の額の算定方法(平成六年厚生省告示第五十四号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

#### 6 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	1. 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 2. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	48
部 検 の 状 況	部検症例数 39例 / 部検率 7.21%

(様式第11)

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
科学研究費補助金 基盤研究(A) 「ヒト化アクティブモデルマウスによる水疱性類天疱瘡の発症機序解明と新規治療法開発」	清水 宏(代表)	皮膚科	21,200,000	補	日本学術振興会
厚生労働科学研究費補助金(免疫アレルギー疾患等予防・治療研究事業) 「アトピー性皮膚炎の予防・治療」	清水 宏(代表)	皮膚科	30,000,000	補	厚生労働省
厚生労働科研費補助金 (難治性疾患克服研究事業) 「稀少難治性皮膚疾患克服のための生体試料の収集に関する研	清水 宏(分担)	皮膚科	600,000	補	厚生労働省
独立行政法人 科学技術振興機構との共同研究「スキンケアチップを利用したスフィンゴ脂質、セラミド等の皮膚機能改善への応用」	清水 宏(分担)	皮膚科	300,000	委	独立行政法人 科学技術振興機構
科学研究費補助金・特定領域研究「皮膚癌の浸潤、転移能における表皮接着分子の直接的関与についての解析」	清水 宏(代表)	皮膚科	6,800,000	補	文部科学省
保健医療分野における基礎研究推進事業研究プロジェクト「疾患に対する新しい生物製剤の開発」	清水 宏(代表)	皮膚科	95,000,000	委	独立行政法人 医薬基盤研究所
厚生労働科学研究費補助金 (難治性疾患克服研究事業) 「稀少難治性皮膚疾患に関する調査研究」	清水 宏(分担)	皮膚科	3,000,000	補 委	厚生労働省
科学研究費補助金 挑戦的萌芽 「表皮細胞における脂質のATP結合トランスポーターABCA12の構造機能相関の解析」	秋山真志(代表)	皮膚科	3,100,000	補 委	日本学術振興会
厚生労働科学研究費補助金(難治性疾患克服研究事業)「道化師様魚鱗癬の治療のための指針の作成と新規治療戦略の開発」	秋山真志(代表)	皮膚科	20,000,000	補 委	厚生労働省
厚生労働科学研究費補助金(免疫アレルギー疾患等予防・治療研究事業) 「患者末梢血を用いた重症薬疹モデルマウスの作成および発症	阿部理一郎(代表)	皮膚科	9,506,000	補 委	厚生労働省
科学研究費補助金・基盤研究(C)「遺伝性皮膚疾患の責任遺伝子の同定」	有田 賢(代表)	皮膚科	1,800,000	補 委	日本学術振興会

科学研究費補助金 若手研究(B) 「骨髄幹細胞を用いた表皮水疱症における再生医療」	猪熊大輔(代表)	皮膚科	1,700,000	補 委	日本学術振興会
科学研究費補助金 若手研究(B) 「ABCA12再構成リポソームを用いた道化師様魚鱗癬モデルマウスの治療法開発」	山根尚子(代表)	皮膚科	1,800,000	補 委	日本学術振興会
科学研究費補助金 基盤研究(B) 「魚鱗癬に対する新規治療法ならびに胎児療法の開発」	秋山真志(代表)	皮膚科	4,100,000	補 委	日本学術振興会
科学研究費補助金・基盤研究(C) 「自己抗原ヒト化マウスを用いた後天性表皮水疱症モデルの作成と新規治療法開発への応用」	芝木晃彦(代表)	皮膚科	1,000,000	補 委	日本学術振興会
科学研究費補助金 基盤研究(C) 「骨髄由来表皮細胞を用いた再生医療」	阿部理一郎(代表)	皮膚科	500,000	補 委	日本学術振興会
保健医療分野における基礎研究推進事業 「新規低分子NF- $\kappa$ B阻害剤(DHMEQ)による新たな免疫抑制療法の開発」	阿部理一郎(分担)	皮膚科	2,000,000	補 委	独立行政法人医薬基盤研究所
科学研究費補助金 若手研究(A) 「17型コラーゲンの分子イメージングによる水疱性類天疱瘡の病態メカニズムの解明」	西江 渉(代表)	皮膚科	3,200,000	補 委	日本学術振興会
科学研究費補助金 若手研究(B) 「表皮水疱症に対する遺伝子治療効果の検証:疾患モデルマウスのトランスジェニック救済」	伊藤 圭(代表)	皮膚科	1,300,000	補 委	日本学術振興会
科学研究費補助金 基盤研究(C) 「ヒストン脱アセチル酵素阻害剤を用いた難治性潰瘍の遺伝子治療」	安川香菜(代表)	皮膚科	500,000	補 委	日本学術振興会
橋渡し研究支援推進プログラム 「新規人工手関節の開発と臨床応用」	三浪 明男	整形外科	3,000,000	補 委	文部科学省
臨床研究関連業務に統計学的品質管理法を導入できるプロセス管理者養成用の教育プログラム開発に関する産学連携共同研究	三浪 明男	整形外科	2,000,000	補 委	株式会社ナカシマ薬局
厚生労働省科学研究費補助金 免疫アレルギー疾患予防・治療研究事業「関節リウマチ上肢人工関節開発に関する研究」	三浪 明男	整形外科	12,000,000	補 委	厚生労働省
脊柱靭帯骨化症に関する調査研究	鏡 邦芳	保健管理センター	1,000,000	補 委	厚生労働省
骨粗鬆症性脆弱性脊椎骨折に対する骨代謝改善薬の適正使用に関する研究	鏡 邦芳	保健管理センター	2,200,000	補 委	日本学術振興会
腱・靭帯繊維芽細胞に対する3次元培養環境下におけるメカニカルストレスの効果	眞島 任史	医学研究科	900,000	補 委	文部科学省
脊柱変形由来の胸郭不全症候群の実態調査とその診断・治療方針の検討	伊東 学	医学研究科	300,000	補 委	厚生労働省



組織誘導再生法を応用した難治性脊椎感染症に対する新しい治療法の開発	伊東 学	医学研究科	1,300,000	補委	日本学術振興会
厚生労働省科学研究費補助金 免疫アレルギー疾患予防・治療研究事業「関節リウマチ上肢人工関節開発に関する研究」	岩崎 倫政	大学病院	3,000,000	補委	厚生労働省
厚生労働省科学研究費補助金 長寿科学総合研究事業「膝痛の診断・治療に関する調査研究－関節マーカーを用いた早期診断と予後予測の確立に関する研究」	岩崎 倫政	大学病院	2,500,000	補委	厚生労働省
重点地域研究開発推進プログラム(育成研究)「関節疾患治療のための新規注射剤の実用化研究」	岩崎 倫政	大学病院	26,286,664	補委	独立行政法人科学技術振興機構
科学研究萌芽研究「糖鎖生物学的アプローチによる骨吸収制御機構の解明」	岩崎 倫政	大学病院	1,800,000	補委	日本学術振興会
共同研究「医療用材料の臨床への応用に関する研究」	岩崎 倫政	大学病院	300,000	補委	株式会社帝人
科学研究若手研究スタートアップ「運動器軟部組織における新しい造影超音波検査の有用性」	船越 忠直	医学研究科	1,300,000	補委	日本学術振興会
人工椎間板の臨床応用と新規ハイブリッド型再生椎間板の開発	小谷 善久	北海道大学病院	1,100,000	補委	日本学術振興会
椎間板細胞の再生を目指した細胞周期制御機構の解明	須藤 英毅	医学研究科	1,000,000	補委	日本学術振興会
生体力学的環境下で機能しうる複合型椎間板再生基板の開発	放生 憲博	北海道大学病院	1,200,000	補委	文部科学省
さっぽろバイオクラスター“Bio-S”「認知機能改善研究グループ: 認知症診断バイオマーカー探索と神経変性抑制作用素材開発」	佐々木秀直	神経内科	600万円	補委	文部科学省
脊髄空洞症の発症素因に関する研究	佐々木秀直	神経内科	500万円	補委	厚生労働省
重症難病患者の地域医療体制の構築に関する研究	佐々木秀直	神経内科	100万円	補委	厚生労働省
神経変性疾患に関する調査研究	佐々木秀直	神経内科	120万円	補委	厚生労働省
筋委縮性側索硬化症の病態に基づく画期的治療法の開発	佐々木秀直	神経内科	90万円	補委	厚生労働省
運動失調症に関する調査研究	佐々木秀直	神経内科	180万円	補委	厚生労働省
正常圧水頭頭症の疫学・病態と治療に関する研究	佐々木秀直	神経内科	100万円	補委	厚生労働省
治験の実施に関する研究[酢酸リュープロレリン]	佐々木秀直	神経内科	250万円	補委	厚生労働省
多系統委縮症におけるゲノム網羅的コピー数多型(CNV)の研究	佐々木秀直	神経内科	220万円	補委	文部科学省
スモンに関する調査研究	矢部一郎	神経内科	70万円	補委	厚生労働省
遺伝性脊髄小脳変性症における病態機序の解明と新規生化学的指標の同定	矢部一郎	神経内科	110万円	補委	文部科学省
多発性硬化症におけるB細胞免疫に関する研究	新野正明	神経内科	130万円	補委	文部科学省
迅速遺伝子解析による胆道閉鎖症細菌プロファイリングと胆管炎早期発見及び予後予測	岡田 忠雄	小児外科	900,000	補委	文部科学省
メンタルコミットロボットを用いた入院支援活動が患児と家族に与える精神的変化の研究 ーロボットセラピーによる癒しの効果ー	岡田 忠雄	小児外科	800,000	補委	北大産学連携本部

心血管ストレス応答におけるミトコンドリア活性酸素シグナル制御	筒井裕之	循環器内科	22,100,000	補委	文部科学省
心筋リモデリングにおけるミトコンドリア転写因子制御の分子機構の解明と治療への応用	筒井裕之	循環器内科	7,020,000	補委	日本学術振興会
進行性心臓伝導障害におけるギャップジャンクションの遺伝子異常と分子病態の解明	蒔田直昌	循環器内科	2,080,000	補委	日本学術振興会
メタボリックシンドロームにおける運動能力低下の分子機構の解明と治療への応用	絹川真太郎	循環器内科	1,300,000	補委	日本学術振興会
メタボリックシンドロームにおける冠血管内皮機能障害の評価と有効な治療法の確立	納谷昌直	循環器内科	1,690,000	補委	文部科学省
突発性心筋症に関する調査研究	筒井裕之	循環器内科	1,100,000	補委	厚生労働省
大尉規模発現解析により得られた新規酵素心臓特異的ミオシン軽鎖キナーゼ(cardiacMLCK)を利用した心不全治療薬・診断マーカーの開発	筒井裕之	循環器内科	1,000,000	補委	厚生労働省
動脈硬化性疾患の危険因子の性差と予防に関するコホート研究	筒井裕之	循環器内科	1,000,000	補委	厚生労働省
心不全患者の左室弛緩能・充満圧評価における組織ドプラ法とスペクトルトラッキング法の比較	山田聡	循環器内科	3,000,000	補委	日本超音波医学会
心肥大・心不全の発症・進展における酸化ストレスの役割に関する研究	筒井裕之	循環器内科	1,200,000	補委	国立循環器病センター
ダブルマイクロアレイによる肝癌発症、進展に関わる新規遺伝子の網羅的解析	中馬 誠	第三内科	4660000円	補委	日本学術振興会
特発性造血障害調査研究	今村 雅寛	血液内科	90万円	補委	厚生労働省
成人難治性造血器腫瘍に対する非血縁者間の同種造血幹細胞移植法の確率に関する研究	今村 雅寛	血液内科	80万円	補委	厚生労働省
臍帯血などからの活性化同種NK細胞培養増幅に関する研究	田中 淳司	血液内科	195万円	補委	日本学術振興会
成人T細胞白血病(ATL)の根治を目指した細胞療法の確立およびそのHTLV-I抑制メカニズムの解明に関する研究	重松 明男	血液内科	50万円	補委	厚生労働省
核医学手法による実験動物でのプラークの性状評価と治療効果判定	玉木長良	核医学分野	6,240千円	補委	文部科学省
PETを用いた喫煙者の冠動脈内皮機能障害と治療効果に関する研究	玉木長良	核医学分野	2,000千円	補委	喫煙科学研究財団
分子レベルの機能診断と標的治療の実現(Ⅲ)	玉木長良	核医学分野	21,100千円	補委	共同研究費
RIプローブの開発、実用化	玉木長良	核医学分野	1,430千円	補委	共同研究費
頭部外傷における神経脱落とリハビリテーション効果の予測について	志賀 哲	核医学分野	1,430千円	補委	文部科学省
腫瘍内低酸素イメージングによる「がん」のプロファイリング	竹井 俊樹	核医学分野	1,560千円	補委	文部科学省
分子イメージングによるがん病態の動的解析：臨床分子イメージングの実現へ	久下 裕司	核医学分野	5,460千円	補委	文部科学省

低酸素領域と血管新生因子の ダブルターゲット標識薬剤によるRI治療	久下 裕司	核医学分野	1,400千円	補 委	文部科学省
分子イメージング技術の 創薬への応用	久下 裕司	核医学分野	7,875千円	補 委	共同研究費
腫瘍診断用核医学分子 イメージング剤の開発	久下 裕司	核医学分野	10,000千円	補 委	共同研究費
PD-ECGを標的とした腫瘍イメージング ：新規核酸誘導体による基礎的検討	西嶋 剣一	核医学分野	1,300千円	補 委	文部科学省
チミンホスホリラーゼを標的とした 腫瘍イメージングプローブの開発	西嶋 剣一	核医学分野	500千円	補 委	秋山記念生命 科学振興財団
大規模コホート研究による難治性 気道疾患の病態解明と個別化治 療への展開	西村 正治	第一内科	7,400千円	補	日本学術振興会
難治性喘息に対する創薬への挑 戦－新規NF- $\kappa$ B阻害薬(DHM EQ)の可能性－	西村 正治	第一内科	1,700千円	補	日本学術振興会
慢性喫煙と加齢が肺胞マクロ ファージのアポトーシス細胞貧食 能に与える影響	南須原 康行	第一内科	1,200千円	補	日本学術振興会
肺における細胞特異的エピジェネ ティクスへの挑戦	別役 智子	第一内科	1,800千円	補	日本学術振興会
気道リモデリング、肺気腫形成に おけるオステオポンチンの関与	今野 哲	第一内科	1,000千円	補	日本学術振興会
炎症性肺疾患における加齢と酸 化ストレス	長井 桂	第一内科	1,900千円	補	日本学術振興会
気管支喘息の有病率・罹患率及 びQOLに関する全年齢階級別全 国調査に関する研究	西村 正治	第一内科	2,500千円	補	厚生労働科研
呼吸不全に関する調査研究	西村 正治	第一内科	2,000千円	補	厚生労働科研
肺癌の動体追跡照射技術開発	大泉 聡史	第一内科	400,000円	補	厚生労働科研
低酸素状態を反映する新しい PET診断による口腔癌治療戦略	北川 善政	北海道大学大学院歯 学研究科 口腔診断 内科学教室	4,100,000	補 委	日本学術振興会
カーボンナノチューブ被覆による インプラント材料の骨伝導能の改 善	野谷 健一	北海道大学大学院歯 学研究科 口腔診断 内科学教室	1,300,000	補 委	日本学術振興会
2種類のPET診断を用いたビスホ スホネート関連顎骨壊死に対する 新たな治療戦略	山崎 裕	北海道大学大学院歯 学研究科 口腔診断 内科学教室	1,500,000	補 委	日本学術振興会
難治性の下顎骨骨髓炎に対する FDG-PETの有用性の検討	秦 浩信	北海道大学大学院歯 学研究科 口腔診断 内科学教室	1,800,000	補 委	文部科学省
ヒト舌癌に対する癌特異的発現増 強アデノウイルスベクターの開発	葛巻 哲	北海道大学大学院歯 学研究科 口腔診断 内科学教室	1,400,000	補 委	文部科学省
RNA-タンパク複合体の核外輸 送と細胞のがん化との関連	石川 誠	北海道大学病院 高 次口腔医療センター 障害者歯科	1,500,000	補 委	日本学術振興会
制御性T細胞治療による臨床肝 移植 における免疫寛容誘導法の開発	藤堂 省	医学研究科 消化器 外科・一般外科	19,500,000	補	厚生労働省 科学研究費補助 金
サージカルトレーニングの在り方 に関する研究	近藤 哲	第二外科	2,243,000	補 委	厚生労働省

バーチャルスライドシステムを用いたがんの病理診断支援のあり方に関する研究	松野吉宏	病理部	16,456,000	補委	厚生労働省
悪性胸膜中皮腫の診断および治療法の確立とアスベスト曝露の実態に関する研究	松野吉宏	病理部	1,000,000	補委	厚生労働省
がん診療を標準化するための病理診断基準確立に関する研究	松野吉宏	病理部	1,000,000	補委	厚生労働省
多施設共同研究の質の向上のための研究体制確立に関する研究	松野吉宏	病理部	1,000,000	補委	厚生労働省
中皮腫における遺伝子異常検索:細胞診断応用の可能性	丸川活司	病理部	590,000	補委	日本学術振興会
全身麻酔後の悪心・嘔吐に対する術中低血圧の影響	黒住 章弘	歯科麻酔科	2,700,000	補委	文部科学省
高齢者プロポフォール静脈内鎮静法におけるTCIポンプを用いた新しい管理方法の検討	藤澤 俊明	歯科麻酔科	700,000	補委	文部科学省
延髄痛覚情報伝達システムの可塑性における免疫組織化学的手法による三次元的解析	詫間 滋	歯科麻酔科	2,700,000	補委	文部科学省
ゲームプレイが口腔機能に与える影響についての研究	金子知生	高次口腔医療センター	700,000	補	財団法人 中山英雄科学技術文化財団
発声機能に優れたカスタムメイドマウスガードに関する研究	金子知生	高次口腔医療センター	256,800	補	名古屋大学エコトピア科学研究所共同研究
2つのプロトコールによる唇顎口蓋裂治療の中期成績の比較検討	三古谷 忠	高次口腔医療センター顎口腔機能治療	700,000	補	日本学術振興会
高機能化カーボンナノ物質修飾3次元スキャホールドを用いた顎骨組織の再建	横山敦郎	歯・咬合(A)・第一補綴	7,500,000	補	日本学術振興会
成長因子含有人工骨でデッドスペースを補填する新たな抜歯即時インプラント法の開発	小松原浩実	歯・咬合(A)・第一補綴	700,000	補	日本学術振興会
ソケットブリザベーション後のインプラント埋入における骨の動態に関する研究	山本悟	歯・咬合(A)・第一補綴	1,500,000	補	日本学術振興会
マウス眼内レンズ挿入光照射モデルにおける着色眼内レンズの視細胞保護効果	石田 晋	眼科	2340千円 うち間接経費:540千円	補	日本学術振興会
難治性内因性ぶどう膜炎再発機序に関する分子遺伝学的検討	北市 伸義	眼科	910千円 うち間接経費:210千円	補	日本学術振興会
未熟児網膜症の原因と治療に関する調査研究	石田 晋	眼科	分担金4000千円	補	厚生労働省
未熟児網膜症の原因と治療に関する調査研究	吉田 和彦	眼科	分担金2500千円	補	厚生労働省
糖尿病網膜症モデルにおける白血球接着分子LFA-1,Mac-1の機能解析	野田 航介	眼科	780千円 うち間接経費:180千円	補	日本学術振興会
こころの健康科学研究事業 反復磁気刺激によるパーキンソン病治療の確立	生駒一憲	リハビリテーション科	800,000	補委	厚生労働科学研究費補助金
こころの健康科学研究事業 高次脳機能障害者の地域生活支援の推進に関する研究	生駒一憲	リハビリテーション科	1,600,000	補委	厚生労働科学研究費補助金
高次脳機能障害者支援事業(リハビリ支援コーディネート事業)	生駒一憲	リハビリテーション科	4,517,992	補委	北海道受託事業

基盤研究(A) 人・機械・相互適応システムの構築に関する研究	生駒一憲	リハビリテーション科	1,000,000	補委	科学研究費補助金
基盤研究(B) 機能的MRIと機能的近赤外線スペクトロスコピーを用いた嚥下時の脳活動に関する研究	生駒一憲	リハビリテーション科	7,100,000	補委	科学研究費補助金
こころの健康科学研究事業 難治性神経因性疼痛に対する大脳一次運動野刺激の多施設共同研究・継続的反复的経頭蓋磁気刺激による効果判定とメカニズム解析	生駒一憲	リハビリテーション科	800,000	補委	厚生労働科学研究費補助金
経頭蓋直流電気刺激反復経頭蓋磁気刺激を用いた高齢脳外傷患者における高次脳機能障害に対する治療法の開発	竹内直行	リハビリテーション科	495,771	補委	日本損害保険協会一般研究助成
若手研究(B) 脳波解析と反復経頭蓋磁気刺激によるブレイン・マシンインターフェイスモデルの開発	竹内直行	リハビリテーション科	1,100,000	補委	科学研究費補助金
口腔炎症の新しい簡便診断法 MPOによる新しい新しい唾液検査法	兼平 孝	北大病院 歯科診療センター	91万円	補委	日本学術振興会
精神的ストレスに対する温泉入浴の影響に関する研究	兼平 孝 佐藤嘉晃	北大病院 歯科診療センター	50万円	補委	(株)アンビックス
Toll様受容体5を介した歯槽骨代謝機構に関する分子生物学的探索	中村 公也	北大病院 歯科診療センター	2,080,000円	補委	科学研究費
HIV感染症の医療体制の整備に関する研究	小池隆夫	第二内科	5,000,000	補委	厚生労働省エイズ対策研究事業
難治性疾患克服研究の評価ならびに研究の方向性に関する研究	小池隆夫	第二内科	2,000,000	補委	厚生労働省難治性疾患克服研究事業
新たな診断・治療法開発のための免疫学的手法の開発	小池隆夫	第二内科	50,000,000	補委	厚生労働省難治性疾患克服研究事業
免疫疾患の病因・病態解析とその制御戦略へのアプローチ	小池隆夫	第二内科	2,000,000	補委	厚労省科学研究費免疫アレルギー疾患等予防・治療研究事業
関節リウマチの関節破壊ゼロを目指す治療指針の確立、及び根治・修復療法の開発に関する研究	小池隆夫	第二内科	2,500,000	補委	厚労省科学研究費免疫アレルギー疾患等予防・治療研究事業
薬剤耐性HIVの動向把握のための調査体制確立およびその対策に関する研究	小池隆夫	第二内科	3,500,000	補委	厚生労働省エイズ対策研究事業
関節リウマチ寛解導入療法体系化に関する研究	渥美達也	第二内科	2,500,000	補委	厚労省科学研究費免疫アレルギー疾患等予防・治療研究事業

関節リウマチにおける生物学的製剤の長期安全性と副作用リスク因子に関する疫学研究	渥美達也	第二内科	300,000	補委	文部科学研究費基盤研究(B)
新たな診断・治療法開発のための免疫学的手法の開発	渥美達也	第二内科	3,000,000	補委	厚生労働省難治性疾患克服研究事業
ANCA関連血管炎のわが国における治療法の確立のための多施設共同前向き臨床研究	渥美達也	第二内科	300,000	補委	厚生労働省難治性疾患克服研究事業
自己免疫疾患に関する調査研究	渥美達也	第二内科	3,000,000	補委	厚生労働省難治性疾患克服研究事業
膠原病、自己免疫疾患の重複症候群を中心とした実態把握と解析に向けた資料収集	渥美達也	第二内科	800,000	補委	厚生労働省難治性疾患克服研究事業
治験の実施に関する研究[タクロリムス水和物]	渥美達也	第二内科	2,500,000	補委	日本医師会治験推進研究事業
膠原病の生命予後規定因子である肺合併症の診断及び治療法の再評価と新規開発に関する研究	保田晋助	第二内科	2,000,000	補委	厚労省科学研究費免疫アレルギー疾患等予防・治療研究事業
自己免疫疾患におけるRasGRPファミリー分子の発現検討	保田晋助	第二内科	1,000,000	補委	文部科学研究費基盤研究(C)
抗リン脂質抗体症候群と全身性エリテマトーデスの疾患感受性遺伝子に関する研究	堀田哲也	第二内科	1,500,000	補委	文部科学研究費基盤研究(C)
膠原病患者由来抗原提示細胞におけるIDOの病態生理への関与についての研究	片岡浩	第二内科	1,300,000	補委	文部省科学研究費若手研究(B)
小児・思春期(若年)発症2型糖尿病患者の合併症発症率の経年的全国調査	吉岡成人	第二内科	750,000	補委	厚生労働省難治性疾患克服研究事業
糖尿病診療均てん化のための標準診療マニュアル作成とその有効性の検証	吉岡成人	第二内科	1,000,000	補委	厚生労働省難治性疾患克服研究事業
Sec63コンディショナルノックアウトマウスを使用した腎嚢胞、肝嚢胞の解析	西尾妙織	第二内科	6,100,000	補委	文部科学研究費若手研究(A)
多発性嚢胞腎モデル動物の作製と薬効評価システムの確立	望月俊雄	第二内科	1,100,000	補委	文部科学研究費基盤研究(C)

BMPと細胞の複合移植によって 水平性骨欠損 の歯周組織再生量の増大を目指す研究	齋藤 恵美子	第二保存科	800千円(直接) 240千円(間接)	補	文部科学省
根面のBMP塗布とコラーゲンス キャプフォルド 移植による歯周組織再生療法の 開発	宮治 裕史	第二保存科	1,100千円(直接) 330千円(間接)	補	文部科学省
接着性レジン上にセメント質再生 を伴う垂直破折 歯根接着治療法の開発	田中 佐織	第二保存科	800千円(直接) 240千円(間接)	補	文部科学省
有機酸誘導体と生体高分子から 構成される 医療用接着剤の歯科応用	川浪 雅光	第二保存科	2,000千円	委	オリンパス
骨髄間質細胞シートとBMP含有コ ラーゲン スポンジの併用移植による骨新生	井上 加菜	第二保存科	500千円	委	クラーク財団
組織工学を用いた接着性レジン 上に歯周組織 再生を伴う垂直破折歯根接着治 療法の開発	田中 佐織	第二保存科	1,000千円(直接) 300千円(間接)	補	文部科学省
骨再生用ナノコーティングスキャ プフォルドを 用いた歯周組織再生療法の開発	宮治 裕史	第二保存科	900千円(直接) 270千円(間接)	補	文部科学省
接着性ナノハイドロキシアパタイト ・コラーゲン 複合体膜の開発	天雲 太一	第二保存科	2,800千円(直接) 840千円(間接)	補	文部科学省
水平性骨欠損部の歯周組織再生 量の増大を 目的とした成長因子複合移植法 の検討	齋藤 恵美子	第二保存科	1,400千円(直接) 420千円(間接)	補	文部科学省
高精度治療技術による低リスク高 線量放射線治療に関する臨床研 究	白土博樹	放射線科	2000万円	補 委	厚生労働省
X線マイクロビーム加速器による 次世代ミニマムリスク型放射線治 療システムの研究開発	白土博樹	放射線科	2790万円	補 委	NEDO
4次元定位放射線治療の基礎	白土博樹	放射線科	930万円	補 委	文部科学省
子宮体がんに対する標準的化学 療法の確立に関する研究	櫻木 範明	婦人科	700,000	補 委	慶應義塾大学
地域における周産期医療システム の充実と医療資源の適正配置に 関する研究	櫻木 範明	婦人科	2,000,000	補 委	東北大学
挑戦的萌芽研究「子宮頸癌の分 子標的温熱放射線療法の基礎的 検討」	櫻木 範明	婦人科	1,600,000	補 委	(独)日本学術振 興会
プロテオーム解析による頭頸部癌 診断・治療の新しい展開	福田 諭(代表)	耳鼻咽喉科	2,470,000	補 委	文部科学省科学 研究費補助金 基 盤研究(B)
進行頭頸部癌に対する漢方治療 の有用性評価	福田 諭(分担)	耳鼻咽喉科	600,000	補 委	厚生労働省科学研 究費補助金 地域 医療基盤開発推 進研究事業
急性高度難聴に関する調査研究	福田 諭(分担)	耳鼻咽喉科	1,000,000	補 委	厚生労働省科学研 究費補助金 難治 性疾患克服研究 事業

ヘルパーT細胞を中心とした革新的免疫治療法の開発	福田 諭(分担)	耳鼻咽喉科	500,000	補委	NEDO「平成21年度基礎研究から臨床研究への橋渡し促進技術開発」
頭頸部癌抗癌剤耐性における網羅的マイクロRNAプロファイリング	折館伸彦(代表)	耳鼻咽喉科	1,430,000	補委	文部科学省科学研究費補助金 基盤研究(C)
ゲノム・プロテオーム解析を用いた頭頸部癌EGFR過剰発現関連分子の同定	本間明宏(代表)	耳鼻咽喉科	650,000	補委	文部科学省科学研究費補助金 基盤研究(C)
放射線照射を生き延びた癌細胞に秘められた謎:癌根絶への多角的アプローチ	本間明宏(分担)	耳鼻咽喉科	0	補委	文部科学省科学研究費補助金 基盤研究(B)
がん治療による口腔内合併症の予防法及び治療法の確立に関する研究	本間明宏(分担)	耳鼻咽喉科	900,000	補委	平成21年度厚生労働省がん研究助成金
センチネルリンパ節理論による頭頸部癌微小転移の解明と個別的治疗法の開発	本間明宏(分担)	耳鼻咽喉科	1,100,000	補委	平成21年度厚生労働省科学研究費(がん臨床)
アレルギー性鼻炎根治を指向したSIRT1蛋白研究の新しい展開	中丸裕爾(代表)	耳鼻咽喉科	2,080,000	補委	文部科学省科学研究費補助金 基盤研究(C)
頭頸部癌の薬剤耐性獲得におけるミトコンドリアDNA変異に関する研究	鈴木清護(代表)	耳鼻咽喉科	2,860,000	補委	文部科学省科学研究費補助金 基盤研究(C)
平衡機能における非共同性眼球運動の役割とその神経機構の解明	武市紀人(代表)	耳鼻咽喉科	650,000	補委	文部科学省科学研究費補助金 基盤研究(C)
学会等助成「第33回日本頭頸部癌学会」	福田 諭	耳鼻咽喉科	450,000	補委	財団法人 伊藤医薬学術交流財団
外国人招へい研究者(短期)事業	福田 諭	耳鼻咽喉科	450,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
献血グロベニン-I-ニチャク使用成績調査(貯法変更「室温保存品(30℃以下、禁・凍結)」)	折館伸彦	耳鼻咽喉科	0	補委	<治験>日本製薬株式会社
タケロン特定使用成績調査「ディスペプシア症状を伴う胃食道逆流症」(LEGEND Study)	折館伸彦	耳鼻咽喉科	346,500	補委	<治験>武田薬品工業株式会社
頭頸部扁平上皮癌根治治療後のTS-1補助化学療法への検討 ―多施設無作為比較臨床試験―	本間明宏	耳鼻咽喉科	0	補委	<受託研究>先端医療振興財団臨床研究情報センター
サラジェン錠使用成績調査	本間明宏	耳鼻咽喉科	0	補委	<治験>キッセイ薬品工業株式会社
日本人における再発又は転移性の頭頸部扁平上皮癌患者に対するファーストライン治療としての、化学療法との併用によるセツキシマブを検討するオープン・単群・多施設共同第Ⅱ相臨床試験	本間明宏	耳鼻咽喉科	4,498,200	補委	<治験>メルクセローノ株式会社
ハベカシン注射液 新用法用量における薬物血中濃度モニタリング施行患者に対する特定使用成績調査	本間明宏	耳鼻咽喉科	173,250	補委	<治験>明治製菓株式会社



in vitroにおけるモンテルカストの炎症性サイトカイン・HDAC活性に与える影響	中丸裕爾	耳鼻咽喉科	0	補委	<受託研究>萬有製薬株式会社
RNA-タンパク複合体の核外輸送と細胞のがん化との関連	石川 誠	高次口腔医療センター口腔インプラント治療部門	1,000,000	補	文科省
メラノーマとリンパ管のinteraction-転移促進因子は産生されるのか?-	小山明彦	形成外科	3,600,000	補	日本学術振興会
浸潤型ケロイド細胞は存在するのか!-効率的なケロイド治療を目指して-	林 利彦	形成外科	2,800,000	補	日本学術振興会
口腔癌幹細胞と微少環境の生物学的特異性を標的にした治療法の開発	戸塚靖則	第二口腔外科	8,840,000	補	文部科学省
血管内皮前駆細胞の組織再生への応用	小野貢伸	第二口腔外科	2,470,000	補	文部科学省
自家神経移植の新たなドナーの追求・検討-歯髄神経を用いて-	松下和裕	第二口腔外科	1,300,000	補	文部科学省
ナノマテリアルを応用した歯科矯正用FRP審美ワイヤーの開発	山方 秀一	歯学研究科	800,000	補委	科学研究費補助金
歯に対する微小変位の間歇的繰返し付与は歯を効率よく移動する	佐藤 嘉晃	歯学研究科	1,100,000	補委	科学研究費補助金
pooled DNAタイピングを用いた顎顔面変形症のゲノムワイド遺伝的関連解析	梶井 貴史	歯学研究科	1,500,000	補委	科学研究費補助金
不正咬合が誘発する情動変化とストレス関連物質-海馬機能と脳腸相関から-	菅原 由紀	歯学研究科	1,300,000	補委	科学研究費補助金
骨移植の成否に関与する要因から考察した造血幹細胞による骨組織再生療法に関する研究	松野 美乃	大学病院	1,200,000	補委	科学研究費補助金
メタボリックシンドロームに対する矯正治療の基礎的検討-	角野 晃大	大学病院	1,300,000	補委	科学研究費補助金
PTH/PTHrP受容体シグナルによるコンドロイチン硫酸の低硫酸化と軟骨組織異常	和田 悟史	大学病院	1,200,000	補委	科学研究費補助金
PARsとVEGFが関与する敗血症性臓不全発症機序解明とその制御法の確	丸藤 哲	救急科	7,000,000	補	科研
敗血症性脳症の病態解明	澤村淳	救急科	1,200,000	補	科研
敗血症または敗血症性ショックにおける制御性T細胞の検討	久保田信彦	救急科	500,000	補	丸茂救急医学研究振興基金
ウェアラブル筋電図測定システムを用いた顎関節症患者の覚醒時ブラキシズムの実態解明	山口泰彦	高次口腔医療センター	3,380,000	補	科研
ブラキシズムによる頭頸部筋の慢性疼痛発現メカニズムの解明	岡田 和樹	高次口腔医療センター	1,300,000	補	科研
重度歯周炎罹患患者の残存歯根膜根面に増殖させた歯とMBPの移植による歯周組織再生	齋藤彰	第二補綴	1,300,000	補	文科省

うつ病における脳の拡散テンソル異常に関する研究	寺江 聡 (研究代表者)	北海道大学病院 放射線部	期間全体 2500千円 / 4,420千円 (本人/課題全体) 平成21年度分 500千円 / 1040千円	補	日本学術振興会 基盤研究 (C)
メタボリックシンドロームの包括的心臓CT診断評価法の確立	大山 徳子 (研究代表者)	北海道大学病院 放射線診断科	期間全体 3200千円 / 4,160千円 (本人/課題全体) 平成21年度分 1400千円 / 1820千円	補	文部科学省 若手研究 (B)
ダブルネットワークゲルが生体内で誘導する関節軟骨自然再生現象の分子機序の解明	安田和則	医学研究科 運動機能再建医学分野	14,690,000円	補	(独) 日本学術振興会
液性因子処理滑膜由来幹細胞投与による腱マトリクス再構築の制御	近藤英司	医学研究科 運動機能再建医学分野	1,820,000円	補	(独) 日本学術振興会
除負荷がIn Vivoで誘導する腱線維芽細胞アポトーシスの発見と分子機序の解明	北村信人	医学研究科 運動機能再建医学分野	1,560,000円	補	(独) 日本学術振興会
骨折治癒過程におけるマクロファージ遊走阻止因子の役割とその制御による効果の解明	小野寺伸	医学研究科 連携研究センター	1,950,000円	補	(独) 日本学術振興会
API阻害感受性の差を利用した肺癌治療の新たな分子標的の同定	木下一郎	腫瘍内科	1,560,000	○補 委補 委補 委補	日本学術振興会

計 208

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

## 2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
J Immunol	A novel active mouse model for bullous pemphigoid targeting humanized pathogenic antigen	Ujiiie H	皮膚科
J Dermatol Sci	Chromosome 11q13.5 variant: No association with atopic eczema in the Japanese population	Nomura Y	皮膚科
Acta Derm Venereol	Response of intractable skin ulcers in recessive dystrophic epidermolysis bullosa patients to an allogeneic cultured dermal substitute	Natsuga K	皮膚科

Hum Mutat.	Plectin expression patterns determine two distinct subtypes of epidermolysis bullosa simplex	Natsuga K	皮膚科
Eur J Hum Genet	Novel IL31RA gene mutation and ancestral OSMR mutant allele in familial primary cutaneous amyloidosis	Lin MW	皮膚科
J Surg Oncol	Controlling the histological margin for non-melanoma skin cancer conveniently using a double-bladed scalpel	Aoyagi S	皮膚科
J Dermatol Sci	Topical application of anti-angiogenic peptides based on pigment epithelium-derived factor can improve psoriasis	Abe R	皮膚科
Clin Exp Dermatol	CD30-positive primary cutaneous anaplastic large-cell lymphoma and definite squamous cell carcinoma	Yanagi T	皮膚科
Clin Exp Dermatol	Primary cutaneous CD30+ anaplastic large-cell lymphoma with generalized skin involvement and involvement of one peripheral lymph node, successfully treated with low-dose oral etoposide	Yamane N	皮膚科
Arch Dermatol	Familial primary localized cutaneous amyloidosis in Brazil	Arita K	皮膚科
J Invest Dermatol	ABCA12 is a major causative gene for non-bullous congenital ichthyosiform erythroderma	Sakai K	皮膚科
J Invest Dermatol	Collagen XVII participates in keratinocyte adhesion to collagen IV, and in p38MAPK-dependent migration and cell signaling	Qiao H	皮膚科
Br J Dermatol	A novel PTPN11 missense mutation in a patient with LEOPARD syndrome	Osawa R	皮膚科
Clin Exp Dermatol	Disseminated cutaneous Mycobacterium kansasii infection in an patient infected with the human immunodeficiency virus	Nomura Y	皮膚科
J Invest Dermatol	Prevalent and rare mutations in the gene encoding filaggrin in Japanese patients with ichthyosis vulgaris and atopic dermatitis	Nomura T	皮膚科
J Immunol	A novel humanized neonatal autoimmune blistering skin disease model induced by maternally transferred antibodies	Nishie W	皮膚科
Br J Dermatol	FLG mutation p.Lys4021X in the C-terminal imperfect filaggrin repeat in Japanese patients with atopic eczema	Nemoto-Hasebe I	皮膚科
Br J Dermatol	Novel mutation p.Gly59Arg in GJB6 encoding connexin 30 underlies palmoplantar keratoderma with pseudoainhum, knuckle pads and hearing loss	Nemoto-Hasebe I	皮膚科
Am J Pathol	Keratinocyte-/fibroblast-targeted rescue of Col7a1-disrupted mice and generation of an exact dystrophic epidermolysis bullosa model using a human COL7A1 mutation	Ito K	皮膚科
Cell	Genotoxic stress abrogates renewal of melanocyte stem cells by triggering their differentiation	Tanimura S	皮膚科

Br J Dermatol	Birt-Hogg-Dube syndrome with clear-cell and oncocytic renal tumour and trichoblastoma associated with a novel FLCN mutation	Nishie W	皮膚科
Br J Dermatol	Analysis of Taiwanese ichthyosis vulgaris families further demonstrates differences in FLG mutations between European and Asian populations	Akiyama M	皮膚科
Carcinogenesis	Deficient deletion of apoptotic cells by macrophage migration inhibitory factor (MIF) overexpression accelerates photocarcinogenesis	Honda A	皮膚科
J Allergy Clin Immunol	DNA vaccination against macrophage migration inhibitory factor improves atopic dermatitis in murine models	Hamasaka A	皮膚科
J Rheumatol	Immunological reconstitution after autologous hematopoietic stem cell transplantation in patients with systemic sclerosis: relationship between clinical benefits and intensity of	Abe R	皮膚科
J Dermatol Sci	Higher density of label-retaining cells in gingival epithelium	Asaka T	皮膚科
J Dermatol Sci	A novel OSMR mutation in familial primary localized cutaneous amyloidosis in a Japanese family	Arita K	皮膚科
Br J Dermatol	Conradi-Hunermann-Happle syndrome with abnormal lamellar granule contents	Akiyama M	皮膚科
Sports Med, Arthroscopy, Rehabilitation, Therapy & Technology	Synovial chondromatosis originating from the synovium of the anterior cruciate ligament: A Case Report.	Majima T	医学研究科
J Arthroplasty	In vivo measurement of patella tracking and patello-femoral contact stress in mobile and fixed bearing total knee arthroplasty.	Sawaguchi N	北海道大学病院
北海道整形災害外科学会誌	人工膝関節置換術におけるナビゲーション	沢口直弘	〃
日本臨床バイオメカニクス学会誌	人工膝関節置換術におけるpatella tracking およびpatello-femoral contact pressure一種類のインサートによる同一患者におけるin vivo計測	沢口直弘	〃
Mol Cancer Res	Adaptor protein Crk induces Src-dependent activation of p38 MAPK in regulation of synovial sarcoma cell proliferation.	Watanabe T	〃
Cell Res. Tyrosine	Crk adaptor protein induced-phosphorylation of Gab1 on tyrosine 307 via Src is important for organization of focal adhesions and enhanced cell migration.	Watanabe T	〃
北海道整形災害外科学会誌	キトサン-ヒアルロン酸ハイブリッド繊維を用いて作製した成熟軟骨様組織の家兎膝関節骨軟骨欠損修復への応用	笠原靖彦	〃
Arthritis & Rheumatism	Down-Regulation of Cathepsin K in Synovium Leads to Progression of Osteoarthritis in Rabbits	Takahashi D	〃
J Hand Surg Am	Arthroscopically assisted reattachment of avulsed triangular fibrocartilage complex to the fovea of the ulnar head.	岩崎倫政	〃

J Bone Joint Surg Am	Autologous osteochondral mosaicplasty for osteochondritis dissecans of the elbow in teenage athletes.	岩崎倫政	〃
Am J Sports Med	Sequential alterations in magnetic resonance imaging findings after osteochondral mosaicplasty for young athletes with osteochondritis dissecans of the humeral capitellum.	岩崎倫政	〃
J Hand Surg Eur	Forearm fascial hernia by harvesting the Palmaris longus tendon	Iwasaki N	北海道大学病院
Journal of Biomedical Materials Research	A-Smooth Muscle Actin-Expressing Cells And Lubricin In Periprosthetic Tissue.	船越忠直	医学研究科
Clin Orthop Relat Res	Distribution of Lubricin in the Ruptured Human Rotator Cuff and Biceps Tendon: A Pilot Study.	船越忠直	〃
Hand Surg	Radiolunate fusion with distraction using corticocancellous bone.	益子竜弥	北海道大学病院
J Hand Surg Eur	Anconeus Muscle Flap for the Treatment of Soft Tissue Defects over the Olecranon after Total Elbow Arthroplasty	Nishida K	〃
J Hand Surg Am	Radial Overgrowth after Radial Shortening Osteotomies for Teenage Patients with Kienböck's Disease	Matsubishi T	〃
Osteoporosis Japan	骨粗鬆症患者の腰背部痛・ADLに対するカルシトニン製剤の効果	伊東 学	医学研究科
Minim Invas Neurosurg	Minimally invasive surgical treatment for tuberculous spondylodiscitis	Ito M	〃
日本腰痛学会雑誌	脊椎脊髄外科におけるMotion Preservation Technology	小谷善久	北海道大学病院
Eur Spine J	Minimum two-year outcome of cervical laminoplasty with deep extensor muscle preserving approach: Impact on cervical spine function and quality of life	Kotani Y	〃
J Neurosurg Spine	Neurological recovery from paraplegia after surgical treatment of sacral plasmacytoma presenting POEMS syndrome. Case report	Kotani Y	〃
Spine	Spinal cord compression by ligamentum flavum hematoma in the thoracic spine	Sudo H	医学研究科
J Orthop Sci	Changes in the sagittal spinal alignment of the elderly without vertebral fractures - A minimum ten-years longitudinal study	Takeda N	保健科学研究所
J Orthop Sci	Treatment of giant cell tumors in the sacrum and spine with curettage and argon beam coagulator	Takeda N	〃
北海道整形災害外科学会雑誌	転移性骨腫瘍に対する診断と治療の現況	武田 直樹	〃

Mult Scler	Relationship between Barkhof criteria and clinical features of multiple sclerosis in northern Japan	Nakamura M	神経内科
Central Nervous System Agents in Medicinal Chemistry	Estrogens as potential therapeutic agents in multiple sclerosis	Niino M	神経内科
Clinical neurology and Neurosurgery	Clinical characterization and successful treatment of 6 patients with Churg–Strauss syndrome-associated neuropathy	Nakamura M	神経内科
Neuroscience Letters	Memory and naïve B-cell subsets in patients with multiple sclerosis	Niino M	神経内科
Brain and Nerve	新しい小脳性運動失調の重症度評価スケールScale for the Assessment and Rating of Ataxia (SARA)日本語版の信頼性に関する検討	佐藤和則	神経内科
Clinical Neuroscience	【真菌とスピロヘータ感染症】ライム病(神経ボレリア病)	秋本幸子	神経内科
Life Sci	Differential modulation of late sodium current by protein kinase A in R1623Q mutant of LQT3.	Makita N	循環器内科
J Nucl Med	Myocardial $\beta$ -Adrenergic Receptor Density Assessed by <sup>11</sup> C-CGP12177 PET Predicts Improvement of Cardiac Function After Carvedilol Treatment in Patients with Idiopathic Dilated Cardiomyopathy.	Naya M	循環器内科
Circ J	Phenotypic Overlap of Cardiac Sodium Channelopathies: Individual-specific or mutation-specific.	Makita N	循環器内科
Circ J	Anxiety and poor social support are independently associated with adverse outcomes in patients with mild heart failure.	Tsuchihashi-Makaya M	循環器内科
J Appl Physiol	Intramuscular metabolism during low-intensity resistance exercise with blood flow restriction.	Suga T	循環器内科
Am J Physiol Heart Circ Physiol	Increased myocardial NAD(P)H oxidase-derived superoxide causes the exacerbation of post-infarct heart failure in type 2 diabetes.	Matsushima S	循環器内科
Circ J	Chronic kidney disease as an independent risk for long-term adverse outcomes in patients hospitalized with heart failure in Japan.	Hamaguchi S	循環器内科
J Echocardiogr	Right ventricular diastolic dysfunction in patients with left ventricular hypertrophy: analysis of right ventricular myocardial relaxation using two-dimensional speckle tracking imaging.	Kaga S	循環器内科
Am J Physiol Heart Circ Physiol	Oxidative stress in skeletal muscle impairs mitochondrial respiration and limits exercise capacity in type 2 diabetic mice.	Yokota T	循環器内科
Circ J	Characteristics and outcomes of hospitalized patients with heart failure and reduced vs preserved ejection fraction. Report From the Japanese Cardiac Registry of Heart Failure in Cardiology (JCARE-CARD).	Tsuchihashi-Makaya M	循環器内科
Circ J	Anemia is an independent predictor of long-term adverse outcomes in patients hospitalized with heart failure in Japan. A Report From the Japanese Cardiac Registry of Heart Failure in Cardiology (JCARE-CARD).	Hamaguchi S	循環器内科

Circ J	Effects of atrial fibrillation on long-term outcomes in patients hospitalized for heart failure in Japan: a Report from the Japanese Cardiac Registry of Heart Failure in Cardiology (JCARE-CARD).	Hamaguchi S	循環器内科
Circ J	Angiotensin II receptor blocker, valsartan, increases myocardial blood volume and regresses hypertrophy in hypertensive patients.	Komatsu H	循環器内科
Arterioscler Thromb Vasc Biol	Natural killer T Cells are involved in adipose tissues inflammation and glucose intolerance in diet-Induced obese mice.	Ohmura K	循環器内科
J Clin Biochem Nutr	Preliminary trial of rebamipide for prevention of low-dose aspirin-induced gastric injury in healthy subjects: A randomized double-blind, placebo-controlled, cross-over study	小野尚子	光学医療診療部
Ann Oncol	Metachronous gastric cancer following complete remission of gastric MALT lymphoma	小野尚子	光学医療診療部
Endoscopy	Effects of preoperative administration of omeprazole on bleeding after endoscopic submucosal dissection: a prospective randomized controlled trial	小野尚子	光学医療診療部
Gastrointest Endosc.	Magnified endoscopic images of duodenal follicular lymphoma and those of fat transportation disorders	小野尚子	光学医療診療部
Endoscopy	Long-term outcome after endoscopic resection in patients with hypopharyngeal carcinoma invading the subepithelium: a case series	清水勇一	第三内科
Endoscopy	Successful salvage endoscopic mucosal resection for residual superficial hypopharyngeal carcinoma after chemoradiotherapy, with long-term survival	吉田武史	第三内科
Acta Haematol	Clonal switch of leukemic myeloblasts after chemotherapy in a patient with chronic myeloproliferative disorder.	Hashino S	第三内科
日本医事新報	H. pylori陽性ITPに対する除菌療法の有効性	橋野聡	第三内科
日本臨床	H. pylori感染症関連疾患と除菌治療の意義 特発性血小板減少性紫斑病 (ITP).	橋野聡	第三内科
(株)南山堂、「治療」	リンパ節腫脹-血液専門医の立場から- デキる医師の紹介・逆紹介 スキル99	橋野聡	第三内科
学会聴講記 4th Trends in Medical Mycology	深在性真菌症～SFI Forum～	橋野聡	第三内科
日本医事新報	CASE 28 めまいで近医受診時に偶然血小板減少を指摘された42歳女性 New専門医を目指すケース・メソッド・アプローチ 血液疾患	橋野聡	第三内科
Int J Cancer. 2010 in press	p53 transactivation is involved in the antiproliferative activity of the putative tumor suppressor RBM5.	小林 隆彦	第三内科
Antivir Ther.	Immunological and mutagenic actions of ribavirin monotherapy preceding combination therapy with interferon for patients with chronic hepatitis C.	小川 浩司	第三内科

J Gastroenterol.	The influence of hepatitis B DNA level and antiviral therapy on recurrence after initial curative treatment in patients with hepatocellular carcinoma.	中馬 誠	第三内科
J Gastroenterol Hepatol.	8-Hydroxy-2'-deoxy-guanosine is a risk factor for development of hepatocellular carcinoma in patients with chronic hepatitis C virus infection.	中馬 誠	第三内科
Int J Hematol	Successful treatment of acute myelogenous leukemia with favorable cytogenetics by reduced-intensity stem cell transplantation.	近藤 健	第三内科
Clin Cancer Res	A Novel FRET-Based Biosensor for the Measurement of BCR-ABL Activity and Its Response to Drugs in Living Cells.	近藤 健	第三内科
Biology of Blood and Marrow Transplantation	Regimen-related mucosal injury of the gut increased the incidence of CMV disease after allogeneic bone marrow transplantation.	Shigematsu A	血液内科
Human Immunology	Increased number of CD16+CD56+ NK cells in peripheral blood mononuclear cells after allogeneic cord blood transplantation.	Tanaka J	血液内科
Annals of Hematology	Differential effects of interleukin-12 and interleukin-15 on expression of NK cell receptor-expressing CD8+ T cells.	Sugita J	血液内科
International Journal of Hematology	Successful treatment of acute myelogenous leukemia with favorable cytogenetics by reduced-intensity stem cell transplantation.	Kondo T	血液内科
American Journal of Hematology	Reduced intensity conditioning regimen with fludarabine, busulfan, and low-dose TBI (Flu-BU2-TBI): clinical efficacy in high-risk patients.	Takahata M	血液内科
Transplant Infectious Diseases	Increased risk of bacterial infection after engraftment in patients treated with allogeneic bone marrow transplantation following reduced-intensity conditioning regimen.	Shigematsu A	血液内科
J Neurosurg Pediatrics	Indolent dorsal midbrain tumor: new findings based on positron emission tomography.	Yamaguchi S	核医学分野
Ann Nucl Med	Therapeutic effects of acupuncture in patients with rheumatoid arthritis: a prospective study using <sup>18</sup> F-FDG-PET.	Sato M	核医学分野
Biol Pharm Bull.	Development of a radiolabeled probe for detecting membrane type-1 matrix metalloproteinase on malignant tumors.	Temma T	核医学分野
Nucl Med Biol	Synthesis and evaluation of a radioiodinated lumiracoxib derivative for the imaging of cyclooxygenase-2 expression.	Kuge Y	核医学分野
Mol Imaging Biol	Clinical value and limitations of <sup>11</sup> C-methionine PET for detection and localization of suspected parathyroid adenomas	Hermann K	核医学分野
Internal Medicine	Modalities for evaluating chemotherapeutic efficacy and survival time in patients with advanced pancreatic cancer: comparison between FDG-PET, CT, and serum tumor markers	Kuwatani M	核医学分野
Eur J Nucl Med Mol Imaging	Coronary vasomotor function assessed by positron emission tomography	Tamaki N	核医学分野



Nuclear Medicine and Biology	In vitro and in vivo evaluations of a radioiodinated thymidine phosphorylase inhibitor as a tumor diagnostic agent for angiogenic enzyme imaging	Akizawa H	核医学分野
臨床栄養別冊 栄養力 UP NST症例集②	体重が増え続けて栄養量の設定が困難であった遷延性脳死状態の小児の栄養管理	池田 陽子	栄養管理部
Respirology	Evaluation of transcutaneous CO <sub>2</sub> responses following acute changes in PaCO <sub>2</sub> in healthy subjects	Fuke Satoshi	第一内科
Thorax	Relationship between improved airflow limitation and changes in airway calibre induced by inhaled anticholinergic agents in COPD	Hasegawa Masaru	第一内科
Immunogenetics	Genetic variants in the mannose receptor gene (MRC1) are associated with asthma in two independent populations	Hattori Takeshi	第一内科
Biogerontology	Aging affects lipopolysaccharide-induced upregulation of heme oxygenase-1 in the lungs and alveolar macrophages	Ito Yoko	第一内科
Antimicrob Agents Chemother	Comparison of the pharmacodynamics of biapenem in bronchial epithelial lining fluid in healthy volunteers given half-hour and three-hour intravenous infusions	Kikuchi Eiki	第一内科
Allergol Int	Genetic impact of butyrophilin-like 2 (BTNL2) gene variation on specific IgE responsiveness to dermatophagoides farina (Der f) in Japanese	Konno Satoshi	第一内科
Respir Med	Matrix metalloproteinases in blood from patients with LAM	Odajima Nao	第一内科
Int J Clin Oncol	Phase I study of amrubicin and vinorelbine in non-small cell lung cancer previously treated with platinum-based chemotherapy	Oizumi Satoshi	第一内科
J Bronchol Intervent Pulmonol	Transbronchial biopsy for peripheral pulmonary lesions under real time endobronchial ultrasonographic Guidance	Shinagawa Naofumi	第一内科
Am J Physiol Lung Cell Mol Physiol	Curcumin attenuates elastase and cigarette smoke-induced pulmonary emphysema in mice	Suzuki Masaru	第一内科
Clin Exp Allergy	Osteopontin is involved in migration of eosinophils in asthma	Takahashi Ayumu	第一内科
J Biol Chem	Rimonabant ameliorates insulin resistance via both adiponectin-dependent and adiponectin-independent pathways	Watanabe Taku	第一内科
Support Care Cancer	Oral health care reduces the risk of postoperative surgical site infection in inpatients with oral squamous cell carcinoma	Jun Sato, Jun Goto, Ayako Harahashi, et al.	Oral Diagnosis and Medicine
Odontology	Pain is associated with Endophytic Growth Pattern of Cancer in Patients with Oral Squamous Cell Carcinoma before Treatment..	Jun Sato, Yutaka Yamazaki, Akira Satoh, et al.	Oral Diagnosis and Medicine
Int J Oral Maxillofac surg	Synovial chondromatosis of the temporomandibular joint accompanied by loose bodies in both the superior and inferior joint compartments: report of a case.	Jun Sato, Ken-ichi Notani, Jun Goto, et al.	Oral Diagnosis and Medicine

Oral Surg Oral Med Oral Pathol Oral Radiol Endod	An open-label, noncomparative, dose escalation pilot study of the effect of paroxetine in treatment of burning mouth syndrome	Yamazaki Y, Hata H, Kitamori S, et al.	Oral Diagnosis and Medicine
日本口腔科学会雑誌	顎関節洗浄療法により開口量の増加が得られた急性化膿性顎関節炎の1例	佐藤 淳、梅本絢子、金田泰幸、他	口腔診断内科
北海道歯学雑誌	HSC-2細胞の炎症反応におけるマクロファージ遊走阻止因子の役割について	永井康一、武田宏司、中川宏治、他	口腔診断内科
Hum. Pathol., 40(5): 678-682, 2009	Minute pulmonary meningotheial-like nodules: clinicopathologic analysis of 121 patients.	Mizutani E, Matsuno Y, et al.	病理部
Cancer Sci., 100(7): 1344-1350, 2009	Phase I/II and pharmacokinetic study of cladribine with 2-h infusion in Japanese patients with relapsed indolent B-cell lymphoma mostly pretreated with rituximab.	Tobinai K, Matsuno Y, et al.	病理部
Appl. Immunohistochem. Mol. Morphol., 17(2): 126-130, 2009	Comparison of different clones (WT49 versus 6F-H2) of WT-1 antibodies for immunohistochemical diagnosis of malignant pleural mesothelioma.	Tsuta K, Matsuno Y, et al.	病理部
J. Clin. Oncol., 27(33): 5594-5600, 2009	Phase I/II study of concurrent chemoradiotherapy for localized nasal natural killer/T-cell lymphoma: Japan	Yamaguchi M, Matsuno Y, et al.	病理部
Pathol. Int., 59(11): 809-812, 2009	Follicular dendritic cell sarcoma of small intestine with aberrant T-cell marker expression.	Yamada Y, Haga H, Kubota K, Matsuno Y, et al.	病理部
Cancer Sci., 101(1): 196-200, 2010	Potential efficacy of the oral histone deacetylase inhibitor vorinostat in a phase I trial in follicular and mantle cell lymphoma.	Watanabe T, Matsuno Y, et al.	病理部
Int. J. Hematol., 91(3): 446-455, 2010	Japan Clinical Oncology Group (JCOG) - Lymphoma Study Group (LSG). Prognostic analysis and a new risk model for Hodgkin lymphoma in Japan.	Itoh K, Matsuno Y, et al.	病理部
病理と臨床、vol.27臨時増刊号「病理学と社会」、pp.56-63、2009	コンサルテーションと病理中央診断	松野吉宏	病理部
検査と技術、37(11): 1285-1289, 2009	肺における大細胞神経内分泌癌(LCNEC)の細胞診	森谷純、松野吉宏	病理部
腫瘍内科、4(1): 1-6, 2009	症例選択を目的とした免疫組織化学染色	山田洋介、松野吉宏	病理部
日本臨床・新領域別症候群シリーズNo.12、消化管症候群(第2版)下-その他	大腸良性リンパ濾胞性ポリポーシス	松野吉宏、山本桂子	病理部
がん化学療法・分子標的治療update、pp.345-350、2009	治療効果予測因子と個別化治療 - 免疫組織染色	山田洋介、松野吉宏	病理部
入門腫瘍内科学、pp.16-20、2009	総論 - 腫瘍とは	松野吉宏	病理部
日本遠隔医療学会雑誌、5(2): 168-169, 2009	地域医療支援基盤としての病理画像のデジタル化 - その現状と課題 -	東福寺幾夫、松野吉宏、他	病理部

検査と技術、37(10)増刊号: 1160-1162, 2009	免疫組織化学(酵素抗体法) 顕微鏡検査のコツ-臨床に役立つ形態学	丸川活司、松野吉宏	病理部
Yakugaku Zasshi (2009) 129:1211-4	Regulation of the Expression of Inducible Nitric Oxide Synthase by Prostanoids	山田武宏	薬剤部
Yakugaku Zasshi (2009) 129:1475-81	Anti-Doping Reference for Pharmacists	笠師久美子	薬剤部
日本病院薬剤師会雑誌 46(3),259-262 (2010)	気分障害圏患者における副作用に対する認知とコンプライアランスへの影響、および心理検査との相関性の検討	久保田康生	薬剤部
The International Journal of Prosthodontics	Factors Differentiating the Morphology of Mandibular Edentulous Alveolar Ridges: A Pilot Study	高山芳幸	歯・咬合(A)・第一補綴
Journal of Electron Microscopy	Transmission electron microscopic observation of cells cultured on multiwalled carbon nanotube-coated sponges	平田恵理	歯・咬合(A)・第一補綴
Journal of biomedical materials research. Part B, Applied biomaterials	3D collagen scaffolds coated with multiwalled carbon nanotubes: initial cell attachment to internal surface.	平田恵理	歯・咬合(A)・第一補綴
Mol Vis. 2009; 15: 1115-1119	Evaluation of PTPN22 polymorphisms and Vogt-Koyanagi-Harada disease in Japanese patients.	Horie Yukihiro	眼科
Rheumatology. 2009; 48: 638-642	Association of TLR4 polymorphisms with Behcet's disease in a Korean population.	Horie Yukihiro	眼科
Arch Ophthalmol. 2009; 127: 187-192	Expression of alpha-crystallins in retinoblastoma.	Kase Satoru	眼科
Br J Ophthalmol. 2009; 93: 541-544	Expression of heat shock protein 27 and alpha-crystallins in human retinoblastoma after chemoreduction	Kase Satoru	眼科
Invest Ophthalmol Vis Sci. 2009; 50: 5909-5912	Proliferative diabetic retinopathy with lymphocyte-rich epiretinal membrane associated with poor visual prognosis.	Kase Satoru	眼科
Br J Ophthalmol. 2009; 93: 1428-1430	Low prevalence of juvenile-onset Behcet's disease with uveitis in east/south Asian people.	Kitaichi Nobuyoshi	眼科
Acta Ophthalmol. 2009; 87: 424-428	Clinical features of intraocular inflammation in Hokkaido, Japan.	Kitamei Hirokuni	眼科
J Neuroophthalmol. 2009; 29: 203-207	Retinal angiography and optical coherence tomography disclose focal optic disc vascular leakage and lipid-rich fluid accumulation within the retina in a patient with leber idiopathic stellate	Kitamei Hirokuni	眼科
Exp Eye Res. 2009; 89: 774-781	Hafezi-Moghadam A. Vascular adhesion protein-1 regulates leukocyte transmigration rate in the retina during diabetes.	Noda Kosuke	眼科
Neuron. 2009; 62: 717-732	Memory and decision making in the frontal cortex during visual motion processing for smooth pursuit eye movements.	Shichinohe Natsuko	眼科

臨床リハ18(7):659-662, 2009	回復期脳卒中症例のリハビリテーションの検討(第2報:入院後の経時的変化)	生駒一憲	リハビリテーション科
J Rehabil Med 41(13):1049-1054, 2009	Repetitive transcranial magnetic stimulation over bilateral hemispheres enhances motor function and training effect of paretic hand in patients after stroke	竹内直行	リハビリテーション科
総合リハ38(1):51-55, 2010	協調運動障害における手すりの高さの検討	生駒一憲	リハビリテーション科
北海道リハビリ35:15-19, 2010	脳卒中急性期における院内リハビリテーション訓練指標の作成	生駒一憲	リハビリテーション科
北海道リハビリ35:31-36, 2010	肝移植後の嚥下障害患者4例の転帰	高橋春子	リハビリテーション科
J Orthop Sci. 2009-Sep;14(5):579-88.	Atelocollagen-associated autologous chondrocyte implantation for the repair of chondral defects of the knee: a prospective multicenter clinical trial in Japan	遠山晴一	リハビリテーション部
Chang Gung Med J. 2009 Mar-Apr;32(2):133-9	Revascularization in the tendon graft following anterior cruciate ligament reconstruction of the knee: its mechanisms and regulation	遠山晴一	リハビリテーション部
日本口腔顎顔面技工研究会誌9巻1号	咬合面の研磨性状と咀嚼能力評価について	大澤 孝	生体技工部
日本口腔顎顔面技工研究会誌9巻1号	より生体に近い感触を持つ耳介エピテーゼの試作	西川圭吾	生体技工部
月刊「歯科技工」第37巻第3号 医歯薬出版社	リアルな感触を追求した耳介エピテーゼの製作 ポリウレタン樹脂を用いた生体に近い感触と動きの再現	西川圭吾	生体技工部
Oral Surg Oral Med Oral Pathol Oral Radiol Endod 2009;108:389-393	A pilot study of a simple screening technique for estimation of salivary flow	兼平 孝	歯科診療センター
American journal of physiology. Renal physiology	Abnormal autoregulation and tubuloglomerular feedback in prediabetic and diabetic OLETF rats	橋本整司	第二内科
Journal of medical virology	Clearance of hepatitis C virus after changing the HAART regimen in a patient infected with hepatitis C virus and the human immunodeficiency virus.	遠藤知之	第二内科
International journal of hematology	Complete remission of splenic marginal zone lymphoma after an acute flare-up of hepatitis B in a hepatitis B virus carrier.	藤本勝也	第二内科
International journal of hematology	Cord blood transplantation with a reduced-intensity conditioning regimen for patients with relapsed aggressive multiple myeloma after cytoreduction with bortezomib.	笠原郁美	第二内科
Arthritis and rheumatism	The effects of phosphatidylserine-dependent antiprothrombin antibody on thrombin generation.	酒井良江	第二内科

European journal of haematology	FCGR3A-158V/F polymorphism may correlate with the levels of immunoglobulin in patients with non-Hodgkin's lymphoma after rituximab treatment as an adjuvant to autologous stem cell transplantation.	西尾充史	第二内科
The Journal of rheumatology	Immunological reconstitution after autologous hematopoietic stem cell transplantation in patients with systemic sclerosis: relationship between clinical benefits and intensity of immunosuppression.	坊垣暁之	第二内科
Endocrinology	Impact of small-molecule glucokinase activator on glucose metabolism and beta-cell mass.	中村昭伸	第二内科
Journal of lipid research	Perilipin overexpression in mice protects against diet-induced obesity	三好秀明	第二内科
Journal of cellular and molecular medicine	Plasma gelsolin facilitates interaction between beta(2) glycoprotein I and alpha5beta1 integrin.	坊垣幸	第二内科
Annals of the rheumatic diseases	STAT4 single nucleotide polymorphism, rs7574865 G/T, as a risk for antiphospholipid syndrome.	堀田哲也	第二内科
Diabetes research and clinical practice	Step-up therapy with biphasic insulin aspart-70/30—Sapporo 1-2-3 study.	吉岡成人	第二内科
Annals of the rheumatic diseases	Complement activation in patients with primary antiphospholipid syndrome.	奥健志	第二内科
日本歯科保存学雑誌	TAD-Albumin glueによる象牙質と軟組織との接着	堀川 元	第二保存科
Journal of Oral Tissue Engineering	Ectopic Bone Induction by BMP-loaded Collagen Scaffold and Bone Marrow Stromal Cell Sheet	井上 加菜	第二保存科
Connective tissue research	Ectopic bone formation after implantation of thermoreversible gelation polymer as a carrier of Bone morphogenetic protein-2	齋藤 恵美子	第二保存科
nano Biomedicine	Effect of crosslinking agent in nanohydroxyapatite-collagen composite on ectopic bone formation with BMP-2 application	天雲 太一	第二保存科
nano Biomedicine	Effect of nano-hydroxyapatite content on bone formation in nano-hydroxyapatite-collagen composite membrane with BMP-2 application	天雲 太一	第二保存科
日歯周誌	1壁性骨欠損における歯根象牙質表面へのBMP-2塗布による歯周組織再生効果	加藤 昭人	第二保存科

Journal of Oral Tissue Engineering	The effects of collagen hydrogel implantation in buccal dehiscence defects in beagles	宮治 裕史	第二保存科
日歯保存誌	コラーゲンハイドロゲル-スポンジ複合体のスキヤフォールドとしての有効性とBMP併用による骨増生	得永 佳介	第二保存科
J Periodontol	Bone Perforation and Placement of Collagen Sponge Facilitates Bone Augmentation	下地 伸司	第二保存科
J Periodont Res	Root Surface Conditioning with Bone Morphogenetic Protein-2 Facilitates Cementum-like Tissue Deposition in Beagle Dogs	宮治 裕史	第二保存科
Journal of Oral Tissue Engineering	Periodontal healing by implantation of collagen hydrogel-sponge composite in one-wall infrabony defects in beagle dogs	加藤 昭人	第二保存科
J Biomed Mater Res	Hybrid Layer Seals the Cementum / 4META / MMA-TBB Resin Interface	田中 佐織	第二保存科
Int J Radiat Oncol Biol Phys.	Clinical outcomes of stereotactic body radiotherapy for small lung lesions clinically diagnosed as primary lung cancer on radiologic examination.	Inoue T, Shimizu S, Onimaru R, et al.	放射線科
Int J Radiat Oncol Biol Phys.	Evaluation of the effectiveness of the stereotactic body frame in reducing respiratory intrafractional organ motion using the real-time tumor-tracking radiotherapy system.	Bengua G, Ishikawa M, Sutherland K,	分子追跡放射線医療寄付部門
Jpn J Clin Oncol	Clinical outcomes of stereotactic brain and/or body radiotherapy for patients with oligometastatic lesions.	Inoue T, Katoh N, Aoyama H, et al.	放射線科
Int J Radiat Oncol Biol Phys	Radiation pneumonitis after hypofractionated radiotherapy: evaluation of the LQ(L) model and different dose parameters.	Borst GR, Ishikawa M, Nijkamp J, et al.	分子追跡放射線医療寄付部門
Int J Radiat Oncol Biol Phys	Relationship Between Diseased Lung Tissues on Computed Tomography and Motion of Fiducial Marker Near Lung Cancer.	Onodera Y, Nishioka N, Yasuda K, et al.	放射線科
Radiol Phys Technol	parameter study of pencil beam proton dose distributions for the treatment of ocular melanoma utilizing spot scanning.	Sutherland K, Miyajima S, Date H, et al.	分子追跡放射線医療寄付部門
Radiology	Microstructural white matter abnormalities of multiple system atrophy: in vivo topographic illustration by using diffusion-tensor MR imaging.	Tha KK, Terae S, Yabe I, et al.	放射線科
Neuroimage	Non-invasive measurement of oxygen saturation in the spinal vein using SWI: Quantitative evaluation under conditions of physiological and caffeine load.	Fujima N, Kudo K, Terae S, et al.	放射線科
Endocrinology. 2009 Dec;150(12):5566-74	Growth Differentiation Factor-9 Mediates Follicle-Stimulating Hormone-Thyroid Hormone Interaction in the Regulation of Rat Preantral Follicular Development.	小林 範子	婦人科

Am J Reprod Immunol. 2009 Nov;62(5):301-7.	A high dose of intravenous immunoglobulin increases CD94 expression on natural killer cells in women with recurrent spontaneous abortion.	島田 茂樹	婦人科
Int J Gynecol Cancer. 2009 Dec;19(9):1585-90.	Survival and failure pattern of patients with endometrial cancer after extensive surgery including systematic pelvic and para-aortic lymphadenectomy followed by adjuvant chemotherapy.	渡利 英道	婦人科
Pathol Oncol Res. 2010 Jan 8. [Epub ahead of print]	Clusterin Expression Inversely Correlates with Chemosensitivity and Predicts Poor Survival in Patients with Locally Advanced Cervical Cancer Treated with Cisplatin-Based Neoadjuvant Chemotherapy and Radical Hysterectomy.	渡利 英道	婦人科
Lancet. 2010 Feb 24. [Epub ahead of print]	Survival effect of para-aortic lymphadenectomy in endometrial cancer (SEPAL study): a retrospective cohort analysis.	櫻木 範明 藤堂 幸治	婦人科
Exp Brain Res	Discharge of pursuit neurons in the caudal part of the frontal eye fields during cross-axis vestibular-pursuit training in monkeys	Fujiwara K	耳鼻咽喉科
Cancer	Superselective High-dose Cisplatin Infusion with Concomitant Radiotherapy in Patients with Advanced Cancer of The Nasal Cavity and Paranasal Sinuses: a Single Institution Experience	Homma A	耳鼻咽喉科
Mol Cancer Res	Ubiquitin-Conjugating Enzyme UBE2Q2 Suppresses Cell Proliferation and Is Down-Regulated in Recurrent Head and Neck Cancer	Maeda H	耳鼻咽喉科
FASEB J	A protein deacetylase SIRT1 is a negative regulator of metalloproteinase-9	Nakamaru Y	耳鼻咽喉科
Auris Nasus Larynx	p53 expression in concurrent chemoradiotherapy with docetaxel for head and neck squamous cell carcinoma,	Oridate N	耳鼻咽喉科
Arch Otolaryngol Head Neck Surg	Voice-Related Quality of Life after Treatment for Laryngeal Cancer	Oridate N	耳鼻咽喉科
Skull Base	Complications of Skull Base Surgery : An Analysis of 30 Cases	Sakashita T	耳鼻咽喉科
J Comput Assist Tomogr. 2010 Jan;34(1):107-12.	Susceptibility-weighted imaging of cerebral fat embolism. J Comput Assist Tomogr.	Zaito Y, Terae S, Kudo K, Tha KK, Hayakawa M, Fujima N, Yoshida D, Tsukahara A, Shirato H.	放射線診断科

European Journal of Radiology Extra, 2009 Nov;72(2):87-90.	Predominant tubulointerstitial nephritis in a patient with systemic lupus erythematosus with an emphasis on CT and MR imaging findings.	Kamishima T, Nishioka N, Hiroshi Kataoka H, Jun Fukae J, Tatsuya Atsumi T, Harris AA, Omatsu T, Onodera Y, Satoshi Terae S, Shirato H	放射線診断科
Jpn J Radiol. 2009 Oct;27(8):328-32.	Intravenous pyogenic granuloma of the finger.	Kamishima T, Hasegawa A, Kubota KC, Oizumi N, Iwasaki N, Minami A, Sasaki S, Yamamoto Y, Omatsu T, Onodera Y, Terae S, Shirato H. Intravenous pyogenic granuloma of the	放射線診断科
J Cardiovasc Comput Tomogr. 2009 Sep-Oct;3(5):346-7.	Volume-rendering and endocardial views of partially unroofed coronary sinus with 64-slice multidetector CT.	Oyama N, Ooka T, Sasaki T, Kubota S, Onodera Y, Matsui Y, Terae S, Shirato H.	放射線診断科
Jpn J Radiol. 2009 Jun;27(5):225-8.	Alveolar hydatid disease of the adrenal gland: computed tomography and magnetic resonance imaging findings.	Kamishima T, Harabayashi T, Ishikawa S, Kubota KC, Nonomura K, Omatsu T, Onodera Y, Shirato H, Terae S.	放射線診断科
J Vasc Interv Radiol. 2009 May;20(5):587-92.	Reduction of bed rest time after transfemoral noncardiac angiography from 4 hours to 2 hours: a randomized trial and a one-arm study.	Kato F, Sato Y, Yuasa N, Abo D, Sakuhara Y, Oyama N, Onimaru R, Aoyama H, Shirato H, Terae S.	放射線診断科
Skeletal Radiol. 2009 May;38(5):467-72.	Power Doppler ultrasound of rheumatoid synovitis: quantification of vascular signal and analysis of interobserver variability.	Kamishima T, Tanimura K, Henmi M, Narita A, Sakamoto F, Terae S, Shirato H.	放射線診断科
Pigment Cell Melanoma Res	Laminin-421 produced by lymphatic endothelial cells induces chemotaxis for human melanoma cells	齋藤典子	形成外科
日本口腔外科学会雑誌	上顎歯槽部に発生した基底細胞腫の例	小野貢伸	第二口腔外科
Mol Med Rep	Pim-1-induced inhibition of cell motility induces the malignant phenotype of tongue carcinoma	小野貢伸	第二口腔外科



Molecular concen Res	HuR knockdown changes the oncogenic potential of oral cancer cells	格口 涉	第二口腔外科
MOLECULAR MEDICINE REPORTS.2:229-234	「Mechanical stress up-regulates RANKL expression via the VEGF autocrine pathway in osteoblastic MC3T3-EL cells」	JUNICHIRO IIDA	歯学研究科
北海道歯学雑誌, 30(1):42-52	「持続的圧迫による微小血管の経時的形態変化に対する加齢の影響」	小原 三郎	大学病院
北海道歯学雑誌, 30(1):32-41	「機械的刺激による微小血管径の増大に伴う白血球動態の変化」	工藤 悠介	大学病院
顎機能誌 15, 131-138	「口輪筋の筋力、持久力の強化に対する有効なトレーニング法について」	大矢 和可	大学病院
Macromol Biosci 9(4):307-316, 2009	A novel double-network hydrogel induces spontaneous articular cartilage regeneration in vivo in a large osteochondral defect.	Yasuda K	北海道大学大学院 医学研究科
Knee Surg Sports Traumatol Arthrosc 17(3): 298-304, 2009	A Soluble factor (EMMPRIN) in exudate influences knee motion after total arthroplasty.	Onodera J	北海道大学大学院 医学研究科
J Biomater Sci Polym Ed, 20(10): 1353-1368, 2009	In vivo biological responses and bioresorption of tilapia scale collagen as a potential biomaterial.	Sugiura H	北海道大学大学院 医学研究科
J Biomech 42(11): 1592-1597, 2009	Effects of stress shielding and subsequent restressing on mechanical properties of regenerated and residual tissues in rabbit patellar tendon after resection of its central one-third.	Yasuda K	北海道大学大学院 医学研究科
J Orthop Sci 14 (5):579-88, 2009	Atelocollagen-associated autologous chondrocyte implantation for the repair of chondral defects of the knee: a prospective multicenter clinical trial in Japan.	Tohyama H	北海道大学大学院 医学研究科
J Biomech 42(15): 2611-2615, 2009	Stress deprivation from the patellar tendon induces apoptosis of fibroblasts in vivo with activation of mitogen-activated protein kinases	Yasuda K	北海道大学大学院 医学研究科
Knee Surg Sports Traumatol Arthrosc 17(7): 800-805, 2009	One-stage anatomic double-bundle anterior and posterior cruciate ligament reconstruction using the autogenous hamstring tendons.	Yasuda K	北海道大学大学院 医学研究科
Biochemical and Biophysical Research Communications 380(4): 844-849, 2009	In vivo bioluminescence imaging of bone marrow-derived cells in brain inflammation	Yasuda K	北海道大学大学院 医学研究科
Chang Gung Med J 32(2): 133-139, 2009	Revascularization in the tendon graft following anterior cruciate ligament reconstruction of the knee: its mechanisms and regulation.	Tohyama H	北海道大学大学院 医学研究科

Acta Biomater 6 (2):494-501, 2010	In vitro differentiation of chondrogenic ATDC5 cells is enhanced by culturing on synthetic hydrogels with various charge densities.	Kwon HJ.	北海道大学大学院 医学研究科
WORLD JOURNAL OF ORTHODONTICS, 10(1):67-75	"ORTHODONTIC TREATMENT OF CLEFT LIP AND ALVEOLUS USING SECONDARY AUTOGENOUS CANCELLOUS BONE GRAFTING :A CASE REPORT"	Takashi S. Kajii	歯学研究科
MEDIMONDO 11th International Congress on Cleft Lip and Palate and Related Craniofacial Anomalies-CLEFT:129-133	"Treatment frequency and costs for orthodontic patients with unilateral cleft lip and palate"	Y. Sato	歯学研究科
日本顎変形症学会雑誌, 19(4):205-216	「骨延長法を併用し下顎前歯のdecompensationを図った骨格性下顎前突および開咬症例」	菅原 由紀	歯学研究科
Nano Biomedical(2), 151- 158	"Preparation and Properties of Thermoplastic-resin-based Nanocomposites for the Development of Esthetic Orthodontic Wires"	Shuichi YAMAGATA	歯学研究科
北海道矯正歯科学会誌, 37(1):30-34	「北海道大学病院における片側性唇顎口蓋裂患者の矯正治療—治療の標準化に向けて:来院状況と医療費—」	佐藤 嘉晃	歯学研究科
Journal of periodontology	Influence of residual bone on recombinant human bone morphogenetic protein-2-induced periodontal regeneration in experimental periodontitis in dogs	齋藤彰	第二補綴

計 243

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを100件以上記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る。)

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

(様式第 12)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法

管理責任者氏名	病院長 福田諭	
管理担当者氏名	総務課長 小出隆弘 薬剤部長 井関 健	医事課長 成田博昭

		保管場所	管理方法
診療に関する諸記録 病院日誌、各科診療日誌、処方せん、手術記録、看護記録、検査所見記録、エックス線写真、紹介状、退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書		各診療科 診療録管理室	<ul style="list-style-type: none"> <li>病歴資料については、診療科毎に作成、保管管理（一診療科一診療録）</li> <li>処方せんについては、薬剤部において保管管理</li> <li>エックス線写真については、各診療科において保管管理</li> </ul> なお、平成12年10月1日以降退院する患者に係る入院診療録（看護記録、サマリーを含む）及び外来診療録の一部は、診療録管理室にて保管管理。
病院の管理及び運営に関する諸記録	従業者数を明らかにする帳簿	総務課	
	高度の医療の提供の実績	医事課	
	高度の医療技術の開発及び評価の実績	医事課	
	高度の医療の研修の実績	総務課	
	閲覧実績	総務課	
	紹介患者に対する医療提供の実績	医事課	
	入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	医事課及び 薬剤部	
第規一則号第一に掲げる十の十一の第一項各号及び第九	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療安全管理部	
	医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療安全管理部	
	医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療安全管理部	
	医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療安全管理部	
	専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	総務課	

条の二十三第一項	専任の院内感染対策を行う者の配置状況	総務課
	医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	総務課
	当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医事課

		保管場所	分類方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一條の十一第一項各号及び第九條の二十三第一項第一号に掲げる体制の確保の	院内感染のための指針の策定状況	総務課
		院内感染対策のための委員会の開催状況	総務課
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	総務課
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	総務課
		医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	総務課
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	総務課
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	総務課
		医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	総務課
		医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	総務課
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	総務課
	医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	総務課	

	状況 医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	総務課	
--	---	-----	--

(注) 「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。

(様式第 13)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び紹介患者に対する医療提供の実績

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

閲覧責任者氏名	病院長 福田 諭
閲覧担当者氏名	総務課長 小出 隆弘
閲覧の求めに応じる場所	会議室

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数	延	0件
閲覧者別	医師	延 件
	歯科医師	延 件
	国	延 件
	地方公共団体	延 件

○紹介患者に対する医療提供の実績

紹介率	69.4%	算定期間	平成21年4月1日～平成22年3月31日
算出根拠	A：紹介患者の数		14,015人
	B：他の病院又は診療所に紹介した患者の数		12,721人
	C：救急用自動車によって搬入された患者の数		679人
	D：初診の患者の数		26,800人

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、B、Cの和をBとDの和で除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。  
2 A、B、C、Dは、それぞれの延数を記入すること。

(様式第 13-2)

規則第 1 条の 1 1 第 1 項各号及び第 9 条の 2 3 第 1 項第 1 号に掲げる体制の確保の状況

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有
<p>・ 指針の主な内容：</p> <p>I. 緊急連絡先・フローチャート</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 医療事故等緊急時・重大事例発生時の連絡網</li><li>・ 困った時の連絡先</li><li>・ 医療安全に関する報告・対応体制 フローチャート</li><li>・ 医療安全に関する報告後の事実調査に関するフローチャート</li><li>・ RCA 分析事例の対応フロー</li><li>・ 他院での医療事故等事案の対応</li><li>・ 当院でのガーゼ遺残疑いが判明した事案の対応フロー</li></ul> <p>II. 基本方針・体制</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 医療安全管理に対する基本方針 ・ 医療安全管理体制 ・ マニュアル改訂履歴</li></ul> <p>III. 共通マニュアル</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 医薬品安全使用に関する手順書 ・ 診療上の基本項目 ・ インフォームド・コンセント</li><li>・ 診療行為に関する項目 ・ 医療機器管理 ・ その他の項目 ・ 血栓/塞栓症ガイドライン</li></ul> <p>IV. 医療機器操作説明</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 人工呼吸器 ・ 輸液ポンプ ・ シリンジポンプ ・ 心電図モニター ・ 心電計 ・ 除細動器</li></ul> <p>V. 診療科・部門</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 医科診療科 ・ 歯科診療センター ・ 中央部門</li></ul> <p>VI. 関連マニュアル</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 共通病床マニュアル ・ 安全衛生関係 ・ 研修医の安全管理</li><li>・ 看護師による静脈注射実施に関する施設基準</li></ul>	
② 医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	年 1 2 回
<p>・ 活動の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"><li>(1) 医療事故等防止対策の検討及び推進に関すること。</li><li>(2) 医療事故等の対応及び原因究明に関すること。</li><li>(3) 医事紛争の対応等に関すること。</li><li>(4) 医療事故等の情報収集及び分析に関すること。</li><li>(5) 医療事故等防止に関する職員の教育・研修に関すること。</li><li>(6) その他医療事故等に関すること。</li></ol>	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 7 回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <p>医療安全の日の講演会「医療事故の経験から伝えたいこと」 講演会「安心・安全と施設環境」 講演会「医療訴訟を巡る諸問題」 インスリン療法安全管理講習会 採血・穿刺時の神経損傷予防について 慢性的経過事例の対応について 急変時の記録の重要性について</p>	

④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況

- ・ 医療機関内における事故報告等の整備 (有)
- ・ その他の改善のための方策の主な内容:

【医療安全に関する報告基準】

1. 医療行為において、過失に起因したインシデントは、レベルに関わらず軽微なものもすべて報告する
2. 患者、家族とのトラブル発生時や、トラブルが予測された場合は、レベルに関わらず報告する
3. 過失がない合併症などの有害事象が発生した場合は、3b以上の事象に関して報告する

【医療安全に関する報告・対応】

1. レベル0～3a: 報告書入力、RMへ報告、原因検証、再発防止策の検討、レベル3aは調査分析委員会にて検討
2. レベル3b有害事象: 直ちに報告書入力、RMへ報告、GRMへ報告、事例報告書の提出、判定会(1回/週)にて医療事故報告制度届出の判定、調査分析委員会にて検討  
\* 事例報告書の提出→予防対策を検討、GRMへ報告
3. レベル4・5有害事象: 発覚後、直ちにRMへ報告、RMは直ちにGRMへ口頭報告、GRMは直ちに現場へ向かう、記録を作成し病院長報告(対応方針の決定)並びに判定会(1回/週)にて医療事故報告制度届出の判定、調査分析委員会にて検討
  - 1) レベル4有害事象: 事実調査・原因推定→①医療過誤の可能性、②医療行為が原因として推定
  - 2) レベル5有害事象: 事実調査→①医療過誤の可能性、②外因死(診療行為中の急変)、③死因が特定できない、④内因死の可能性が高い

\* 医療事故対策特別部会を開催し、病院の方針を決定、関係機関への報告並びに家族への説明

\* 有害事象の対応方針

下記の場合は外部委員を含む医療事故調査委員会を設置し原因究明・再発防止策の提言

- ① 医療過誤が想定された場合、②原因が特定できない場合、③原因について家族の了解が得られない場合

【問題点の分析方法(各部署、安全管理部門の問題点の分析方法)】

1. 3a以上で、過失により発生した事案や重大事故の可能性のある事案は、RCA分析チームを編成し、RCA分析を行い、原因分析・再発防止策を作成し、再発防止策について定期的評価を実施
2. 医療事故等調査・分析専門委員会において、3a以上の報告については、月毎にレベル・過誤の判定と合併症の妥当性の検討
3. レベル3b以上の報告は、毎週月曜日に、報告内容を分析し、原因と患者への影響度を検討し、医



療事故報告制度への報告対象事例の判定

【改善策の検討方法】

1. 月間・年間報告は、発生レベル・報告状況・場面別・職種別に分析集計し、「医療安全のための報告集計報告書」を作成し、各種委員会や病院運営会議において報告・周知
2. 前年度の当該診療科・部署からの報告を集計し、優先課題・取組み事項、次年度に向けての継続事項を検討
3. 医薬品・医療機器に関する不具合事象については、関係専門委員会で再発防止策を検討し、システムの改善、講習会・研修会等の企画・運営を実施

⑤ 専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	有 ( 4名)
⑥ 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有 ( 2名)
⑦ 医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	有
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 所属職員： 専任 (6) 名 兼任 (18) 名</li> <li>・ 活動の主な内容：               <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 医療事故及びインシデント報告書等の受理及び分析に関すること。</li> <li>(2) リスクマネジメント委員会の運営及びリスクマネジャー連絡会議の運営に関すること。</li> <li>(3) 医療安全に関する教育及び研修に関すること。</li> <li>(4) リスクマネジャー及び関係部署との連絡調整に関すること。</li> <li>(5) 患者相談窓口との連携。</li> <li>(6) その他医療安全に関すること。</li> </ol> </li> </ul>	
⑧ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	有

(様式第 13-2)

医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	有
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年22回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <p>【医療安全管理部 主催研修】 インスリン療法安全管理講習会 1回</p> <p>【医療安全管理部・薬剤部 共催研修】 医薬品に関する講習会「危険薬の取扱い」（看護職対象）2回 静脈注射エキスパートナースのための講習会（看護職対象）1回 医薬品に関する講習会「インシデント事例からの学び」（全職種対象）1回 新任職員研修「薬の知識とリスクマネジメント」 1回 研修医向けの講習会 2回 異動後（指導医）医師研修 2回</p> <p>【腫瘍センター・薬剤部 共催研修】（12回） 「抗悪性腫瘍薬」、「癌薬物療法時の緊急時の対応」、「化学療法と看護ケア」、「インフォームドコンセント・癌告知」、「カテーテル・ポート管理」、「緩和ケア・緩和ケアチーム」、「大腸癌の薬物療法」、「臨床研究のプロトコール」、「研究倫理とIRB」、「頭頸部癌」、「胆道・膵臓癌」、「がん疼痛ケア」、「悪性リンパ腫」、「多発性骨髄腫」、「白血病」、「食道癌」、「胃癌」、「非小細胞肺癌」、「乳がん」、「泌尿器癌」、「頭皮ケアセミナー」</p>	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
<p>・ 手順書の作成 （有）</p> <p>・ 業務の主な内容：</p> <p>医薬品安全使用に関する手順書</p> <ol style="list-style-type: none"><li>1) 医療安全上、注意を要する薬剤リスト (1) 特に安全管理が必要な薬剤リスト (2) 配合注意・投与ルートで注意を要する注射薬 (3) 誤認に注意薬剤</li><li>2) 指示・伝達ルール (1) 指示・伝達ルール (2) 口頭指示は原則禁止</li><li>3) 内服薬に関する管理基準 (1) 内服薬管理基準 (2) 薬剤管理指導業務手順書 (3) 入院患者の持参薬確認業務手順書</li><li>4) 注射薬に関する管理基準 (1) 注射業務管理基準 (2) 注射薬混合調製(ミキシング)手順書</li><li>5) 危険性の高い薬剤・抗がん剤に関する手順書 (1) 危険性の高い薬剤の取扱い手順書 (2) 抗がん剤の投与に関する手順書 (3) 抗菌剤皮内反応に関する対策 (4) 抗凝固・抗血小板療法施行時における出血性合併症および抜歯・手術時の対応 (5) 抗癌剤被爆防止に関するマニュアル (6) ビグアナイド系糖尿病服薬中のヨード造影剤使用の検査について</li><li>6) 医療安全情報管理 (1) 医療安全性情報管理体制 (2) 薬剤部における医薬品情報管理手順</li><li>7) 医薬品管理 (1) 病棟における注射剤管理業務手順書 (2) 病棟における薬剤師業務基準</li></ol>	

- (3) 麻薬管理取扱い手順書  
8) インスリン療法マニュアル  
(1) インスリン療法マニュアル (2) インスリンマップ

業務の実施状況把握のため、毎年「医薬品に関する業務調査」を行っている。  
また、2009年8～9月に注射業務管理基準について、手順に沿った業務が行われているかを各診療科、病棟へ出向き、確認した。  
一方、内服薬管理基準、入院患者の持参薬確認業務手順書、注射薬混合調製(ミキシング)手順書、ビッグアナイド系糖尿病薬服薬中のヨード造影剤使用の検査について、インスリン療法マニュアルの改訂を行った。

④ 医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況

- ・ 医薬品に係る情報の収集の整備 (有)
- ・ その他の改善のための方策の主な内容:

医薬品の情報管理体制として、医療安全性情報管理体制を整備し、薬剤部における医薬品情報管理手順を作成し、それに基づき、医薬品医療機器等安全性情報や使用上の注意の改訂情報などは随時、メールにより各診療科へ情報提供を行っている。  
医療安全管理部では日本医療評価機構からの医療安全情報は「医療安全情報」としてメールにより診療科・部門に提供している。また、関係機関からの医薬品に関する情報、新聞報道からの事故情報などは「緊急情報提供と点検のお願い」にて情報提供とともに現場での業務点検を依頼している。  
医薬品に関するインシデントの分析結果を基にeラーニングシステムを構築中である。  
医薬品に関するインシデント集計・分析結果により、専門委員会やワーキング等で医薬品に関するインシデント防止対策や講習会内容の検討を行っている。

## 医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	有
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年12回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <p>人工呼吸器安全管理講習会（基礎課程1クール3回を2クール実施・認定課程1回）          医療機器に関する研修 「輸液・シリンジポンプ編」 2回          新規導入の人工呼吸器サーボ研修会 1回          個人用多用途透析装置（平成21年8月7日実施）          人工心肺装置 導入時（22年2月1回実施）</p>	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<p>・ 計画の策定 （有）</p> <p>・ 保守点検の主な内容：</p> <p>医療機器安全管理システムを活用し、クラス分類を参考に保守点検計画を策定・実施している。          スキャナー（平成22年8月設置）で取り込んだ実施項目については、医療機器安全管理システムで確認できるようになっており、過去の点検履歴も含め、現在、入力作業を進めている。</p> <p>【中央管理機器】          ME機器管理センターで、日常点検・稼働後の点検、3ヶ月等の定期点検、年点検の実施          不具合発生時の現場調査と故障点検の実施。          故障時のメンテナンスとメーカーとの調整。</p> <p>【放射線部管理機器】          放射線診療従事者より、①始業点検、②2回/月以上の出力線量測定、③3ヶ月及び6ヶ月毎に          放射線及び幾何学的点検、④漏洩線量等の放射線管理に関する測定を実施している。          他に製造メーカーと保守契約を結び年間3回の定期メンテナンスを実施している。</p> <p>【診療科・部門管理機器】          各診療科・部門管理機器の保守点検計画表に基づき、機器の保守点検を実施している。</p>	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<p>・ 医療機器に係る情報の収集の整備 （有）</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <p>医療機器の情報管理体制として、医療安全性情報管理体制を整備。          それに基づき、日本医療評価機構からの医療安全情報は「医療安全情報」としてメールに診療科・部門に提供。          関係機関やメーカーからの医療機器に関する情報、新聞報道からの事故情報などは緊急情報提供と点検のお願いにて情報提供とともに現場での業務点検を依頼。          また、ME機器管理センターからメールにて医療機器情報を現場へ提供。          医療機器を管理するため北海道大学病院の医療機器安全管理体制を明文化し、医療機器安全管理担当者を診療科に委嘱。          人工呼吸器稼働状況・医療機器に関する実態調査により、機器の更新に関して管理課と調整し、医療機器の集中管理を進め、医療機器安全管理体制専門委員会にて方策を検討。          医療機器に関するインシデントの分析結果を基にeラーニングシステムを導入し、9月21日より本稼働。</p>	

院内感染対策のための体制の確保に係る措置

①院内感染対策のための指針の策定状況	④
<p>・指針の主な内容</p> <p>当院の北海道大学院内感染指針は以下の項目から成っている。H22.3に改訂を行った。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 院内感染対策に関する基本的な考え方</li> <li>2 院内感染対策に関する管理組織機構             <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 院内感染対策委員会</li> <li>(2) 院内感染対策特別部会</li> <li>(3) 感染制御部</li> <li>(4) 感染防止対策チーム</li> <li>(5) 感染対策マネージャー連絡会議</li> </ol> </li> <li>3 職員研修に関する基本方針</li> <li>4 感染症の発生状況の報告に関する基本方針</li> <li>5 アウトブレイクあるいは異常発生時の対応に関する基本方針</li> <li>6 患者等への情報提供と説明に関する基本方針</li> <li>7 その他院内感染対策の推進のために基本方針</li> </ol>	
②院内感染対策のための委員会開催状況	年 12 回
<p>・活動の主な内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・院内感染防止対策の検討及び推進</li> <li>・院内感染防止の対応及び原因究明</li> <li>・院内感染等の情報収集及び分析</li> <li>・院内感染防止等に関する職員の教育・研修</li> </ul>	
③従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	21 年度 50 回
<p>・研修の主な内容（対象者には職員その他、外部委託者・ボランティアを含む）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・院内感染対策講演会「本院における院内感染対策」</li> <li>・新規感染対策マネージャー講習会「院内感染対策指針と感染対策マネージャーの役割」 「感染防止の基礎」</li> <li>・研修医院内感染対策研修「感染防御具の脱着方法」</li> <li>・専門領域研修会感染管理「感染制御の基本」</li> <li>・事務系職員感染対策講習会「事務における感染対策」</li> <li>・清掃外注職員研修「血液、体液、排泄物の危険性」</li> </ul>	

④感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況

- ・ 病院における発生状況の報告等の整備 (㊦)
- ・ その他の改善のための方策の主な内容
  - ・ 感染対策指針及び感染対策マニュアルを改訂した。
  - ・ 感染防止対策チームを設置して、院内感染状況、抗菌薬の適正使用、職員の感染防止策等の実施状況の把握と指導を行っている。
  - ・ 耐性菌サーベイランス等、感染症法に基づく院内感染症発生状況の迅速な把握と対応を行っている。
  - ・ 病室前に貼る「感染経路別予防策のプレート」を作成した。
  - ・ 感染制御部専任の事務員を配置した。
  - ・ 月1回開催される感染対策マネージャー連絡会議の内容をどのようにして各部署の構成員に伝達したか確認するシステムを構築した。